

AWARDS JAPAN 2024



CONTENTS

目次

PROGRAM

01 事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦賞

P06

えにわハッピーハロウィン2023
5月度例会 NISHIMINO防災フェスタ
子ども未来プロジェクト かけっこ教室×バネ人間ショー
日本ベトナム青少年国際交流事業in佐世保
アーバンフェスタ2023in城陽
8月例会「第30回赤川花火記念大会」
未来へバトンを!短編映画製作プロジェクト!
~映画がつなぐ、地域と歴史!JCがつなぐ、地域と世界~
令和6年能登半島地震復興支援PR事業
三浦まちづくり作戦会議~親子にやさしい地図を作ろう!~
西宇和のみかんは世界一プロジェクト

一般社団法人恵庭青年会議所
公益社団法人大垣青年会議所
一般社団法人沖縄青年会議所
一般社団法人佐世保青年会議所
一般社団法人城陽青年会議所
公益社団法人鶴岡青年会議所
一般社団法人長門青年会議所
一般社団法人羽咋青年会議所
公益社団法人三浦青年会議所
一般社団法人八幡浜青年会議所

PROGRAM

02 事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞

P17

アーバンフェスタ2023in城陽
MACHIMEGURI 2023
標葉祭り2023

一般社団法人城陽青年会議所
公益社団法人富山青年会議所
一般社団法人浪江青年会議所

PROGRAM

03 事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

P21

ドリームキッズシティISHIKARI2024
MORIYAダイバーシティプロモーション
~私たち一人ひとりが居住地域から国際社会の課題解決を~
「あつまれ、未来の名探偵!~きみは真実を見抜けるか~」
NAGANO子どもゆめ体験会 ~教えて!お兄さん・お姉さん~

石狩青年会議所
一般社団法人茨城南青年会議所
公益社団法人長野青年会議所

PROGRAM

04 事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム賞

P25

2月例会 財政局拡大会議アワー「第3回マッチングプレゼンテーション
~それぞれの熱海をつなげよう~」
異業種交流会2024
6月オリエンテーション
『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』

一般社団法人熱海青年会議所
一般社団法人おおさき青年会議所
公益社団法人春日井青年会議所

PROGRAM

05 事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム賞

P29

姉妹JCとの人材交流事業
第3回 目黒グローバルフェスティバル
インターナショナルホスピタリティ事業
(国際交流事業&国際災害訓練事業)

公益社団法人金沢青年会議所
公益社団法人東京青年会議所
一般社団法人宮崎青年会議所

PROGRAM

06 最優秀会員

P33

公益社団法人東京青年会議所 西川 恭央 君

PROGRAM

07 事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞

P35

つながろう!耕作放棄地再生プロジェクト
エネ×そばナイトフェスタ~エネルギーと食の地産地消~
GREEN HALLOWEEN IN YOKOHAMA

公益社団法人新大隅青年会議所
一般社団法人日光青年会議所
一般社団法人横浜青年会議所

PROGRAM

08 事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞

P39

新入会員アカデミー事業
「JCの存在意義を見つめ直す!」長門JCフィロソフィ策定事業
2024年度定時総会

一般社団法人高槻青年会議所
一般社団法人長門青年会議所
一般社団法人横浜青年会議所

PROGRAM

09 事業褒賞部門 BESTアドベンチャーツーリズム賞

P43

高岡の食×伝統文化×自然を感じるツアー
土と炎の里 MADE in BIZEN を巡る旅
YAKUSHIMA Island Tour 2024

一般社団法人高岡青年会議所
一般社団法人備前青年会議所
屋久島青年会議所

PROGRAM

10 事業褒賞部門 デジタルDE未来まちづくり賞

P48

3月例会未来はいつも妄想から始まる~社会課題解決型ハッカソン~
社会課題解決型ハッカソンin柏崎
社会課題解決型ハッカソンin奈良

一般社団法人一関青年会議所
一般社団法人柏崎青年会議所
公益社団法人日本青年会議所
近畿地区協議会 地域力共創委員会

PROGRAM

11 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 10名以下の部

P52

安芸青年会議所
一般社団法人さくら青年会議所
一般社団法人逗子葉山青年会議所

PROGRAM

12 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部

P54

一般社団法人綾瀬青年会議所
一般社団法人桶川青年会議所
一般社団法人丹羽青年会議所

PROGRAM

13 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部

P56

一般社団法人一関青年会議所
一般社団法人土岐青年会議所
一般社法人都城青年会議所

PROGRAM

14 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部

P58

一般社団法人市川青年会議所
一般社法人流山青年会議所
一般社団法人日立青年会議所

PROGRAM

15 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部

P60

一般社法人大東青年会議所
公益社団法人調布青年会議所
公益社団法人鶴岡青年会議所

PROGRAM

16 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 110名以下の部

P62

公益社団法人太田青年会議所
公益社団法人春日部青年会議所
一般社団法人栃木青年会議所

PROGRAM

17 拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞111名以上の部

P64

一般社団法人堺高石青年会議所
一般社団法人札幌青年会議所
公益社法人名古屋青年会議所

PROGRAM

18 拡大グランプリ

P66

公益社団法人春日部青年会議所

PROGRAM

19 準グランプリ

P68

6月オリエンテーション
『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』

公益社団法人春日井青年会議所

PROGRAM

20 グランプリ

P70

YAKUSHIMA Island Tour 2024

屋久島青年会議所

PROGRAM

21 アンケート

P72

AWARDS JAPAN

2024

事業褒賞部門

各ブロック協議会推薦賞

えにわハッピーハロウィン2023

一般社団法人恵庭青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

2015年第1回開催当時、6年後に控える創立50周年に向けて策定した6ヵ年ビジョンをもとに企画・立案された本事業ですが、青少年健全育成を軸に市民と行政が一体となる“世代間交流の重要性の訴求”と、地域の魅力とその発信力を強化するための“地域資源の活用の最大化と魅力発信”の2本柱を設定し、運動に取り組んできました。JCらしく毎年テーマや内容を変えながらも、全てはまちの活性化へつなげるために行うことができました。



事業背景

恵庭市が一体となってまちづくりを進める一歩となるべく、特産品のかぼちゃを活用したハロウィンイベントを開催することで、世代を超えた地域の人と人とのふれあいを通して優しさやあたたかさを共有し、こころのつながりをつくるきっかけの場を創出しました。



事業目的

えにわハッピーハロウィンが改めて必要であると思われる事業であり、市民を巻き込むことで持続可能な事業となることを目的としました。



事業概要

道の駅「花ロードえにわ」に併設された“花の拠点 はなふる”にて9年目の開催として「えにわハッピーハロウィン2023」を開催いたします。特産品のかぼちゃを活用したランタン作りや個性豊かな仮装で会場を彩り、「かぼちゃピラミッド」など夜にはハロウィンカラーでライトアップがされたフォトスポットを用意し、えにわをかぼちゃのまちのイメージとして今後もえにわハッピーハロウィンの定着と秋の一大事業として周知され市内外から足を運んで恵庭の魅力を発信しました。



運動効果

恵庭市内3地域の世代間交流の希薄化から人のつながりが弱まる中で、地域と世代を超えた事業として、多くの企業や団体との連携を取りながら地域の魅力とつながりを育む機会を創出できました。また、恵庭市民に対して世代を超えた地域の人のつながりが生まれること、地域一体となつてこころのつながりを醸成することができました。

5月度例会 NISHIMINO 防災フェスタ

公益社団法人大垣青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

大垣JCでは、周辺各市町と「災害時における協力体制における協定」を締結しています。災害時には、協定を生かし即座に連携できるように、行政担当者と社会福祉協議会と共に防災事業を行いました。社会福祉協議会の方からヒアリングを行い、防災のイベントに参加する人は、高齢の方が多く若年層に興味をもってもらいたいということから、若年層が興味をもってもらえるような内容にしました。討議、協議、審議とブラッシュアップした内容となり例会を行いました。地域のイオンモールに全面協力を得て、防災関係の9団体にブース出展をしてもらえ、対外参加者数も300名を超えることができました。



事業背景

大垣JCは、以前より行政、社会福祉協議会と共に地域住民の防災に関する意識の向上に努め、災害に備える事業を実施してきました。その中で、大垣JCにおいて開催された過去2回の防災事業や各市町において開催された防災事業に参加した際、参加者は年配の方ばかりであり、若者の参加は少なく、防災への活動に消極的だと感じました。災害時には子供から大人に至るまで個人としてまず自分の命を守り、被災後の体験を通して行動を理解しておくことが防災において非常に大切です。また、地域住民が互いに助け合うためにも防災への意識をより一層高めていく必要があると考えます。今後も官民が協力して、広く地域住民へ防災に対する意識向上の機会を提供することにより、地域住民の主体性を育むことが災害時の被害の軽減につながり、持続可能な地域社会の実現の一助となると確信しています。



事業目的

災害時における協力体制に関する協定を結ぶ三者の連携を活かし、体験を通じて地域住民の防災に対するさらなる意識の向上を促す機会の提供としました。



事業概要

西美濃地域2市9町の行政、社会福祉協議会との連携を活かし、イオンモール大垣にて様々な防災体験ブースを設置し、体験を通じて地域住民の防災に対するさらなる意識の向上を促しました。



運動効果

南海トラフ地震が懸念され、昔から水害が多い大垣周辺地域ですが、災害が起こった際には、まず自分や身近な人を守る方法を知ってもらえました。また、行政や社会福祉協議会にも、防災のことを行っている団体を知ってもらえたので、各市町の防災事業にも活かしてもらえると考えます。

子ども未来プロジェクトかけっこ教室×バネ人間ショー

一般社団法人沖縄青年会議所

～事業にける想い、工夫、こだわり～

本事業は地域の未来を担う子供たちの成長を支援するために企画されました。事業の立案は地域・青少年委員会が中心となり、開催地である沖縄市の教育委員会や地域のスポーツ振興課などと連携して進められました。事業計画は2023年3月中旬から子供委員長との会議を皮切りに、アスリート工房との打ち合わせや、地域のリーダーたちとの協議を経て詳細を詰めていきました。5月には沖縄市長や議会との面談を行い、6月にはマスコミ各社への取材依頼を行うなど、広報活動も積極的に行いました。実施当日は、会場であるコザ運動公園しんきんドームにて、かけっこ教室やバネ人間ショーを開催し、参加した子供たちにスポーツを通じた貴重な体験を提供しました。事業終了後は、子供委員長による感想文の提出や理事会で報告を行い、事業の成果の発表そして事業後の効果を考える場を設けました。



事業背景

沖縄JCは、これまで地域にとって何が必要かを考え、事業を計画し、実施してきました。これらの活動により、沖縄JCは地域に必要とされる組織となり、同時に沖縄JCの会員はこれらの活動を通して成長することができました。今後、さらに沖縄JCが地域に貢献し、明るい未来を創り出すためには、沖縄JCの会員のみならず、未来を担う子供たちが主体的に自分のもっている個性や能力を最大限発揮し、自らが課題に向き合う機会や挑戦する環境を創出していく必要があります。



事業目的

未来で活躍する地域の子供たちに様々な経験をする機会を提供し、地域にとって必要とされる組織を目指しました。また、子供委員長に、普段の学校生活では体験できない地域全体を巻き込む事業を実施し、地域のリーダーとして成長する機会を提供することを目的としました。



事業概要

本事業は、小学5年生の子供委員長と共にイベントの企画と運営を行い、リーダーシップやチームワークのスキルを養い、子供の夢を叶えながら未来のリーダー育成を行いました。イベントでは、走る楽しさを子供たちに伝える「かけっこ教室」を開催し、人気YouTuber「バネ人間」外間友喜氏によるジャンプパフォーマンスを実施しました。参加者には特典としてタオルと専用バックを配布し、抽選で「バネ人間」との写真撮影やサイン会を開催し、本事業を通して子供委員長が自分がやりたいと思ったこと、すなわち、人気YouTuber「バネ人間」と一緒にイベントをしたいという夢を実現するとともに、子供委員長に「諦めずにやれば必ずできる!」という成功体験を得る機会を創出することができました。



運動効果

地域の子供たちに対し貴重な体験と成長の機会を提供しました。これにより、子供たちは新たな挑戦に取り組む姿勢を養い、自己の可能性を広げることができました。また、この事業は地域全体を巻き込む形で実施され、地元の教育委員会や地域企業の協力も得ることができました。結果として、地域の連携が強化され、社会全体で子供たちの成長をする場の提供を可能としました。事業の成功は、沖縄JCの組織力と企業連携の賜物となり今後も地域に必要とされる組織であり続けられるように活動していきます。

日本ベトナム青少年国際交流事業in佐世保

一般社団法人佐世保青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

2023年度は、当会議所創立70周年記念の年でした。当会議所のうち青少年国際委員会は、青少年の健全な育成と国際交流について取り組んでおりましたが、日本とベトナムが外交関係樹立50周年を迎えたこと、長崎県とベトナム・クアンナム省が友好交流関係を締結して5周年を迎えたことなど、長崎とベトナムとは400年以上にわたる深い縁があることから、ベトナムの青少年と佐世保市の青少年を対象とし、国際交流を通じて青少年に多様性を理解してもらえるような事業ができないか検討することになりました。また、ベトナムから来日するには多額の費用が必要であることから、2023年度が当会議所創立70周年であり、毎年積み立てていた基金を取り崩し、来日するベトナムの青少年たちの旅費を全て負担するなど、強い意気込みで臨むことになりました。



事業背景

当会議所はこれまで、このまちの青少年に心身ともに健全な育成を行うために、様々な事業を構築してきました。佐世保市は米軍基地や、クルーズ船が入る港を備えているなど、日本の中でも特に国際色が豊かなまちです。将来に向けて国際化が加速していく中、このまちの未来を担い、さらに発展させることのできる人財を育成する必要があります。そのためには国際交流の機会を創出し、このまちの宝である子供たちにコミュニケーション能力と、多様性を育む必要があると考え本事業を企画しました。



事業目的

対外向きとしては、このまちの青少年に本事業を通して、心身ともに健全な育成に寄与し、多様性を涵養すること、青少年が国際交流を通して、お互いの個性を理解し、尊重しあうことで、国際的な友情を深めることを目的としました。また、対内向きとしては、国際交流事業を通して青少年の健全な育成を支援し、多様な視野を広げていただくことを目的としました。



事業概要

佐世保市内の小学6年生及びベトナム在住の中学1年生(日本では小学6年生に相当)を対象とし、サッカーを通じてベトナムの子供たちと佐世保市の子供たちが国際交流を行い、多様性を育む事業となります。当会議所は佐世保市サッカー協会と連携が取りやすいことから、サッカーによる交流を行いました。そして、サッカーだけではなく、日本や佐世保の文化を楽しんでいただけるように、ご当地グルメ「佐世保バーガー」やBBQなどを準備したり、同じ場所で宿泊したり、佐世保のまちの散策へ同行したりするなど、できる限り交流の機会を設けて、ベトナムの青少年が日本・佐世保の魅力を理解できるようにしました。また、佐世保の青少年もサッカーやBBQなどを通じてベトナムの青少年と国境を越えた交流を行い、ベトナムの文化や価値観を知り、多様性を理解できるようにしました。



運動効果

2024年5月に当会議所のメンバーがベトナムまで来訪の御礼に伺った際、「とても感謝している」「今後も交流を続けていきたい」とのお言葉をいただきました。サッカーを通じた国際交流・多様性への理解の重要性についての意識をより深めていただいたことで、今後は佐世保市サッカー協会が主導し、継続的にサッカーを通じた交流を続けていただく予定です。当会議所は、後援するという形になります。ベトナムと佐世保の青少年がサッカーによる国際交流を通して、お互いの文化に対する理解が生まれ、多様性が育まれたとともに、本事業を通して国際的な友情が深まり、国際交流の輪が広がり、次の段階へとつながったと考えます。

アーバンフェスタ2023in城陽

一般社団法人城陽青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

以前から本市における小中学生がスケートボードパーク建設を行政に求め請願書を提出した記事を拝見しており、委員長に就任した際に再度その後どうなったのか気になり調査いたしました。結果は残念ながら行政側では進んでおらず、私はそこで未来ある子供たちのため、「叶えたい」を胸に本事業開催を決めました。調査に関しては、本市議員の皆様を巻き込み周辺地域のスケートパークがある4都市に聞き込みを行い、建設にいたる経緯や建設費・スケートパーク図・年間来場数を拝見と共に教えていただきました。事業開催場所には株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様に地域貢献協力打診と共にお願いし、上記における小中学生や親御様方とも連携し再度スケートボードパーク建設の署名活動も行いました。事業費に関しましては、協力者様に寄附という形で打診し事業費を賄いました。



事業背景

城陽市は、青少年の健全育成に向け、社会性や自主性を育む活動や支援を日々行っていますが、社会全体のモラル低下や価値観の多様化が進むとともに、家庭を含めた地域社会における人間関係の希薄化が進んでいるのが現状です。そこで、我々城陽JCではスポーツのまち城陽として、スポーツを通して、本市の若い選手を育てる場とともに市民の皆様が集えるレクリエーションの空間アーバンスポーツを取り入れた、次世代の公園の建設が必要と考えます。



事業目的

現在、周辺都市にはアーバンスポーツを行える施設があり、本市にはアーバンスポーツを行う施設がなく、緑とオープンスペース政策は、都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視するステージ(新たなステージ)と移行すべきであるとされています。暮らしやすいまちづくりにおいて新たな価値を見出し、公園の在りようを戦略的に考えることが、まちの魅力を底上げできる、シティプロモーションにとって非常に有益であります。アーバンスポーツの中でも2020年から正式なオリンピック競技になり、需要はどんどん高まっており、多く利用者が増加傾向にあるスケートボードを選定し、パーク施設数が大幅に足りない、本事業目的の本市にスケートパーク建設を請願するに至りました。



事業概要

地域密着企業の株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様にご協力いただき、事業場所や事業設備に必要な備品などを無償でお貸しいたき、参加動員500名を目標に、スケートボード体験コーナーやスケートボードプロスケーターの公演、アーバンスポーツ関連の企業物販の実施。本市におけるダンススクールと、対外ダンススクール交流とともにステージにて公演を催し、本市活動拠点のキッチンカーを4台レッドブルカーの計5台を配置して市民の皆様にはサードプレイスを交えての事業を行いました。



運動効果

本事業後に市長へ、スケートパーク建設希望者1363人の署名書を直接お渡しし、その際、二社から取材を受け新聞にも掲載されました。行政に対しましては正式に請願書を提出し、本市企業の株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様とは今年1月新年例会からJCと団結式を執り行い、さらなる本市への飛躍にもつながると確信しております。今年に入り2月29日には市議会に出席し行政・市議会議員方々の前で請願書の有無を質疑応答させていただき無事、本市にスケートボードパーク建設が採択されました。

8月例会「第30回赤川花火記念大会」

公益社団法人鶴岡青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

30年続く継続事業になり、毎年楽しみにしているというアンケート結果も出ており、今年も地域を盛り上げるイベントとして必要性を感じ事業計画しました。実行委員会と連携して、1月からは会議を始め、詳細の計画としては5月～7月で議案構築する流れとなっています。実行委員会と連携し、大会会場内外の仮設物(バリケード、仮設トイレ、投光器、発電機、大会本部、各連絡所、電気設備、案内看板、特別観覧席)の準備などの設営協力を行いました。また、特別観覧席購入者のチケット確認、観覧客誘導、障がい者観覧スペースの補助の協力、大会会場内外の保安警備、歩行者誘導の協力、花火業者と連携した大会構成、企画内容への運営協力、その他様々なトラブルによる問い合わせへの対応協力など運営協力も行いました。全席チケット制を導入し観客数を制限することで安心安全を第一とした事業の運営を行い、鶴岡市と三川町の住民へ向けた、無料で花火を観覧できる席を設置し、エンディング花火の火薬費の一部として予算を使用し、花火を観た人たちに笑顔を与え元気になってもらえるようなエンディング花火を打ち上げることができました。



事業背景

新型コロナウイルス感染症により、外出制限や行事の中止など鶴岡市や三川町、全国の方々に暗く辛い状況となりました。この状況を払拭し、皆様に明るい気運や活力を与える必要があります。また、第30回となる赤川花火大会は、コロナ禍であっても花火を上げ、地域に活力と子供たちに笑顔を与えてきました。鶴岡市や三川町の方々が地域に誇れる花火大会を持続可能な大会にする必要があります。



事業目的

(対内)
赤川花火大会の運営を通しメンバーの成長を目的としました。
(対外)
観客を動員し赤川花火大会を通じて庄内地域の活性と魅力の発信、経済効果を創出しました。



事業概要

赤川花火大会の打ち上げ幅700mのワイド性を活かし、音楽と融合した創作花火を打ち上げることで、花火を見に来た人たちに感動と笑顔を与えることができ、地域に誇れるイベントとなりました。人の交流の促進と賑わいをもたらすことで地域に元気を与えました。また、大会の開催まで各部会で企画し、行政や他団体などと打合せを行うなど、赤川花火大会の運営に携わることでメンバーの成長につながりました。赤川花火大会の設営に参加し、観覧者や鶴岡市の方から喜んでる姿を見ることができ、地域に誇れる花火大会であるという認識をしていただくと同時に、運営と想いを継承しました。



運動効果

地元飲食業や宿泊業、その他様々な面での経済効果や鶴岡の魅力発信につながりました。また、地域住民が赤川花火に携わりたい、自分たちも運営してみたいという気持ちが高まり、地域を共に盛り上げる協力者となることを期待しています。

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦賞

未来へバトンを!短編映画製作プロジェクト!

~映画がつなぐ、地域と歴史!JCがつなぐ、地域と世界~



一般社団法人長門青年会議所

~事業にかける想い、工夫、こだわり~

当時の私たちは、背景にある問題意識を抱えてはいるものの、それをどう解決していけば良いのか、具体的な案はありませんでした。そんな中、日本JC好循環地域確立会議のユアドリムプロジェクトの話を聞いて、これまで日本JCの会議体と協働で活動をしたことのない我々にとっては非常に勇気が必要な決断でしたが、手を挙げました。プロジェクトの流れに沿って、地域の魅力をぎゅっとまとめたストーリーができあがり、そのストーリーをどう使うか、背景と目的とを照らし合わせながら会議体とも、地域とも現地で協議を重ねました。映画撮影においては、主演2名以外は監督、撮影、編集スタッフを含めすべて地域の方々でした。JCとしての役割は映画完成後の公開において、広いネットワークで発信をしたことです。地域のことは地域主体で、JCにしかできないことはJCが、そういった確かな棲み分けを行っていたのも当事業の特徴でした。



事業背景

地域の人口が減少することにより、文化や伝統を守っていく人々もまた少なくなってきました。文化や伝統は一度途絶えてしまうと、再興は非常に難しいものです。1100年以上の歴史を誇る俵山温泉は、その泉質の良さから全国平成温泉番付の「西の横綱」にも選定され、地元住民や全国各地からの観光客から人気の「湯治場」であり、誇るべき地域資源であるにも関わらず、その例えとは言えません。また、地域にある唯一無二の魅力でさえ地域住民にとっては当たり前であり、地域の魅力を地域住民が認識していないことは大きな課題です。ありのままの文化や伝統を未来につなげていくためにアクションを起こす必要があり、地域に誇りを持ち、次世代につなげていきたいという機運を醸成していく必要があると考えました。



事業目的

①地域が誇る文化や伝統を正しく理解し、その魅力に基づいて地域の将来を、地域の方々が前向きに考えていけるきっかけをつくることです。先人が紡いできた伝統や文化は唯一無二の価値であり、またその歴史を紐解くことで魅力を見つめ直すことができます。その流れの中で、地域の方々自身が大切にしていかなければならないと自覚することで持続可能な社会につながると考えます。
②地域が誇る魅力を、市内外問わず多くの人に知ってもらうことです。文化や伝統の継承は「守りたい」という方向ではなく、「守ってほしい」という思いとの双方向が必要だと考えます。故に、「守ってほしい」と思う人を一人でも増やすことは重要だと考えます。



事業概要

短編映画「TAWARAYAMA」を製作し、YouTubeでの全世界公開を行いました。この手法を選んだ理由は、まず、地域に住む方にとって、地域の魅力は日常に溶け込んでいるため認識することが難しいのと同時に、課題に関しては、なるべく直視したくないという心理が働くと考えました。しかし、映画という一つの物語にすることで、自地域への関心が高まるとともに、一度は必ず観てもらえたと想像できることから、新たな視点で地域を見直す機会が生まれ、課題を自分事として捉えるには効果的な手法であると考えました。また、一度も俵山地域を訪れたことのない方が「俵山」をいきなりネット検索する可能性は極めて低く、まずはエンターテインメントとして俵山地域を発信していくことが必要だと考えました。当事業は、日本JC好循環地域確立会議の方々、山口ブロック協議会LOM支援委員会の方々の協力を得て進めました。



運動効果

(撮影時)地域の方々とは話す機会が多く、諸課題について直接聞く中で、「撮影を通じて課題についてあらためて考え直すことができた」と言われました。また、撮影中は、俵山地域の方々の温かさや魅力に直接触れることができ、そのできごとを短編映画の脚本に反映させることで、人の温かさ自体が魅力であり、守っていくべきことだという認識を地域の方にもっていただけました。(公開後)公開後は市内外から多くの感想やコメントが寄せられました。その中には、短編映画を鑑賞して、俵山地域に訪れたというものや、来訪して実際に出演者と交流ができたこと、映画の中にでてくる和菓子や土産をわざわざ買ってきた、というものがありました。今も、地域の方々とは交流があり、先月受賞した中国地区褒賞の最優秀賞を報告した際も非常に喜んでいただきました。また、他地域からは「俵山だけでなく、うちの地域も盛り上げてくれ」というJCそのものに対する評価が大きく上がったことを実感しています。また、他地域からは「俵山だけでなく、うちの地域も盛り上げてくれ」というJCそのものに対する評価が大きく上がったことを実感しています。

令和6年能登半島地震復興支援PR事業

一般社団法人羽咋青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

他LOMへ協力を依頼し、打ち合わせをするために、能登5LOM連絡会議にて計画立案しました。会場イベントステージで、3名が登壇、約2000人を前に能登の現状と支援の必要性、「#もう来ていいよ能登」と伝えられました。



事業背景

令和6年1月1日の能登半島地震で、能登の多くの事業者が被災し、発災から2ヶ月が経とうとしていた3月2日時点でも、上下水道復旧が完了せず、営業・操業ができない状況の事業者が多くあり、緊急的な支援が必要でした。一方で、時間の経過とともに首都圏では、震災報道も徐々に減り、能登の現状が伝わらないまま、通常の生活が営まれて経済が回っていました。多くの支援が必要な現状が知られず、「能登が忘れられる」危機感を能登地域のJC5団体（のと5LOM）が共有し、県外の方々へ、早急に支援の必要性を発信する必要があります。



事業目的

(対外)
能登の復旧状況にもエリアによって事情が違ふこと、多くの支援が必要だがその支援にも様々な方法があること、を来場者にPRし1人でも多くの方に知っていただきます。被災し支援が必要な能登地域の事業者から物品を集め、代理販売することで緊急支援につなげます。
(対内)
被災したことにより事業どころではない“のと5LOM”が、後世につなげたい地域の魅力を出し合い復興支援PR事業に取り組むことで、各LOMの地域復興の1歩を踏み出す原動力にします。



事業概要

首都圏イベントに出向いて、被災事業者の商品の販売、及び、能登の現状PR「能登の里山里海の素晴らしさと、今、そして今後も首都圏の方々に来て頂きたい!」と会場の方々に伝えました。

出展イベント:カーボンニュートラルを考える2024 SATOYAMA & SATOUMImovement
日時:2024年3月30日、31日
会場:幕張メッセ国際展示場ホール11
PR活動:会場イベントステージで10分間のPR枠を活用
ブース出展:能登の物品販売、のと復興応援冊子「Hello!のとノート」の販売
企画:のと復興応援冊子「Hello!のとノート」の創刊



運動効果

これまでの羽咋JCでは考えることのできない事業となりました。自分たちのエリア外での事業実施であり、他LOMと協力しての事業実施でした。イベント主催者への働きかけなど、積極的に事業構築と実施した経験によって、今後のLOMの事業計画の幅を広げることとなりました。何より、令和6年能登半島地震の風化を防ぐことです。そして、被災地へ行ってサポートするだけではないことを実践的に訴えることができ、さらには青年層に向けて主張することができ、継続的な支援活動の一助になったと思います。

事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦賞

三浦まちづくり作戦会議 ～親子にやさしい地図を作ろう!～

公益社団法人三浦青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

事業の計画段階から、委員会メンバーで協力し合い、三浦市内の子育て支援施設やサービスをリストアップしました。広報物のデザインのたたき台や広告動画の作成は委員会内で行い、協力団体とも事前にヒアリングを行い、地図に掲載する情報を幅広い意見を収集しました。実施当日は、三浦市民交流センターニナイテにて、未就学児の子育て世代を対象にしたワークショップを開催し、地域の子育て環境やサービスを掲載した子育てマップ作成を行い、12月22日にデジタルマップ『みうら子育てマップ』のポスターとショップカードを三浦市長に提出してきました。



事業背景

現代の日本では人口減少に伴う地域の過疎化や平均寿命が延びたこと、非婚晩婚化による少子高齢化が問題となっております。これにより子育てを取り巻く環境が大きく変化してしまいました。各家庭と地域のつながりが希薄になってしまい子育てについて相談できず悩ま抱えてしまう保護者が増えてしまっている現状があります。そこで我々JCとして未就学児の子育て世代に対して地域の子育て環境やサービスを発信することにより、安心して子育てができるまちを創ることが使命であると考えます。



事業目的

(対内)
本事業を通じて、まちを善くするために本気で取り組んでいる姿を肌で感じてもらうことで、三浦JCメンバーの意欲向上を図ります。また三浦JCならではの例会をすることでメンバーの参加率向上の狙いがあります。

(対外)
三浦市にある子育て支援施設やサービスを明確化するために地図を作成し、市内外の未就学児の子育て世代に周知することで、地域がより身近になり愛着が沸き親同士の交流が活性化されること、また三浦への関心がより高まり三浦へ来るきっかけの創出を目的とします。また三浦JCの認知度向上を図ります。



事業概要

本事業は、地域の子育て環境やサービスを明確化し、未就学児の子育て世代に周知するために、三浦市内の子育て支援施設やサービスをGoogleマイマップにまとめるものでした。地図は三浦市民交流センターニナイテで作成され、完成した地図は三浦JCホームページ上で公開し、マップのQRコード入りのカードを、三浦市の子供課を通じて地域の未就学児の子育て世代に配布しました。また、YouTubeで広告動画を配信し、広く周知を図りました。協力団体として、おやこのあそびばこ・三浦市観光協会・マホロバマインズ・城ヶ島観光協会・BeBeくらぶが参加し、普段親子で使うような地域の公園や飲食店などのお役立ち情報を載せたマップを作成しました。



運動効果

本事業を通じて、地域の子育て環境やサービスの情報を提供することで、未就学児の子育て世代の安心感が高まりました。
みうら子育てマップは、新しい情報や口コミが反映できるように「Googleマイマップ」を選びました。地域の子育て環境やサービスの情報を継続的に提供することで、未就学児の子育て世代の安心感が持続し、地域社会全体で子育てを支える文化が根付くことが期待されます。また、三浦JCの認知度向上が継続し、地域社会における影響力が強まりました。

西宇和のみかんは世界一プロジェクト

一般社団法人八幡浜青年会議所

～事業にける想い、工夫、こだわり～

八幡浜JCは「西宇和のみかんは世界一プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、柑橘産業の課題解決と地域振興を目指し、市民の関心喚起、地域の認知度向上、青年団体との連携強化を重視し、共感とビジョンを基に行動しました。当青年会議所理事長が会長、まちづくり委員会の委員長が実行委員長となり、実行委員会を結成。ギネス世界記録挑戦の計画や柑橘産業の支援方法、市民や青年団体の参加を月に一回の会議で調整し、事業を進めました。

実行委員会は柑橘業界・行政・学校・団体・市民と協力し、ギネス世界記録に挑戦。「最大規模の柑橘類試食会」を成功させ、2023年11月12日にギネス世界記録を達成。八西地域の柑橘産業の魅力を世界に発信しました。



事業背景

私たちの暮らす八西地域は、愛媛県で最も人口減少率が高い地域です。市民が地域に興味や関心をもち、まちの将来を担う人達にこの地域の魅力を感じてもらわなければ、益々過疎化の一途を辿ります。八幡浜JCは最も地域のことを考える団体だからこそ、故郷に愛着をもち、この地域を持続的に発展するまちに変えていく必要があります。



事業目的

- ①市民が地域に興味や関心をもち、若者に故郷をさらに好きになってもらいます。
- ②柑橘日本一の地域を世界一にすることで、八西地域の魅力をさらに伝えていきます。
- ③基幹産業のさらなる認知度アップを目指します。
- ④八幡浜JCのPR、市民との一体感の強化を目指します。



事業概要

八幡浜JCは地域への愛着を深め、持続的な発展を目指して「最大規模の柑橘類試食会」でギネス記録に挑戦しました。この取り組みの目的は、市民が地域に興味をもち、特に若者が故郷をさらに愛着をもつこと、八西地域の柑橘産業の魅力を世界に発信し、基幹産業の認知度を高めること、そして八幡浜JCのPRと市民との一体感を強化することです。2023年11月12日、道の駅・みなとオアシス八幡浜みなとで実施され、ギネス記録を達成し、1183人の参加を誇りました。JAにしろ、八幡浜市、伊方町、地元高校など多くの団体と協力し、地域全体で取り組みました。当日は厳しいルールの中で、参加者は西宇和地域の柑橘について学び、6種類の柑橘を試食しました。この取り組みを通じて、地域の愛着を深め、柑橘産業の認知度を高め、地域の魅力を全国に広く発信しました。さらに、多くの市民と共に協力してイベントを成功に導くことができました。



運動効果

- ①経済的影響
地域の柑橘産業の注目度が高まり、売上の増加がアンケートの結果からわかりました。基幹産業に良い影響を及ぼしました。
- ②社会的影響
地域の魅力を再認識し、地域への愛着が深まりました。特に若者が故郷に対する誇りを持ち、地域への愛着とアイデンティティの向上へつながりました。多くの市民や団体が協力してイベントを成功させたことで、地域の一体感が強まりました。
- ③教育的影響
地域の柑橘産業の歴史や重要性・特徴などについて学ぶ機会を提供することで、市民にとって地域の産業への理解が深まりました。
- ④持続的発展への影響
地域の魅力や産業の重要性を発信していくことで、若者が地元に戻り、後継者となる動機づけの一助になりました。地域の基幹産業を支える活動が持続可能な地域発展の基盤となり、行政や企業、教育機関との連携が強化され、地域全体での発展が促進につながりました。
- ⑤メディアと広報の影響
地域のメディア露出が増加し、注目が集まり、地域のブランド力向上に寄与しました。

AWARDS JAPAN 2024

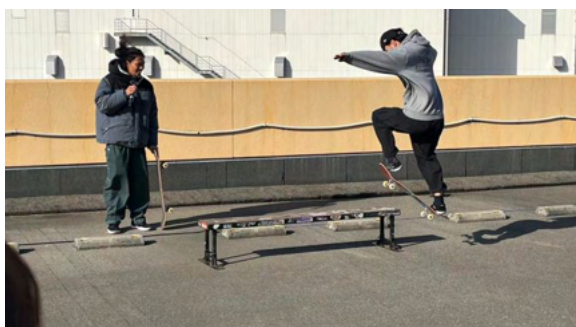
事業褒賞部門
最優秀LOM
地域社会向上プログラム賞

事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞 アーバンフェスタ2023in城陽

一般社団法人城陽青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

以前から本市における小中学生がスケートボードパーク建設を行政に求め請願書を提出した記事を拝見しており、委員長に就任した際に再度その後どうなったのか気になり調査いたしました。結果は残念ながら行政側では進んでおらず、私はそこで未来ある子供たちのため、「叶えたい」を胸に本事業開催を決めました。調査に関しては、本市議員の皆様を巻き込み周辺地域のスケートパークがある4都市に聞き込みを行い、建設にいたる経緯や建設費・スケートパーク図・年間来場数を拝見と共に教えていただきました。事業開催場所には株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様に地域貢献協力打診と共にお願ひし、上記における小中学生や親御様方とも連携し再度スケートボードパーク建設の署名活動も行いました。事業費に関しましては、協力者様に寄附という形で打診し事業費を賄いました。



事業背景

城陽市は、青少年の健全育成に向け、社会性や自主性を育む活動や支援を日々行っていますが、社会全体のモラル低下や価値観の多様化が進むとともに、家庭を含めた地域社会における人間関係の希薄化が進んでいるのが現状です。そこで、我々城陽JCではスポーツのまち城陽として、スポーツを通して、本市の若い選手を育てる場とともに市民の皆様が集えるレクリエーションの空間アーバンスポーツを取り入れた、次世代の公園の建設が必要と考えます。



事業目的

現在、周辺都市にはアーバンスポーツを行える施設があり、本市にはアーバンスポーツを行う施設がなく、緑とオープンスペース政策は、都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視するステージ(新たなステージ)と移行すべきであるとされています。暮らしやすいまちづくりにおいて新たな価値を見出し、公園の在りようを戦略的に考えることが、まちの魅力を底上げできる、シティプロモーションにとって非常に有益であります。アーバンスポーツの中でも2020年から正式なオリンピック競技になり、需要はどんどん高まっており、多く利用者が増加傾向にあるスケートボードを選定し、パーク施設数が大幅に足りない、本事業目的の本市にスケートパーク建設を請願するに至りました。



事業概要

地域密着企業の株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様にご協力いただき、事業場所や事業設備に必要な備品などを無償でお貸しいたき、参加動員500名を目標に、スケートボード体験コーナーやスケートボードプロスケーターの公演、アーバンスポーツ関連の企業物販の実施。本市におけるダンススクールと、対外ダンススクール交流とともにステージにて公演を催し、本市活動拠点のキッチンカーを4台レッドブルカーの計5台を配置して市民の皆様にはサードプレイスを交えての事業を行いました。



運動効果

本事業後に市長へ、スケートパーク建設希望者1363名の署名書を直接お渡しし、その際、二社から取材を受け新聞にも掲載されました。行政に対しましては正式に請願書を提出し、本市企業の株式会社平和堂アル・プラザ城陽店様とは今年1月新年例会からJCと団結式を執り行い、さらなる本市への飛躍にもつながると確信しております。今年に入り2月29日には市議会に出席し行政・市議会議員方々の前で請願書の有無を質疑応答させていただき無事、本市にスケートボードパーク建設が採択されました。

MACHIMEGURI 2023



公益社団法人富山青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

富山県・富山市・民間企業・まちづくり団体・学生・富山JCでミーティングを行い地域資源の更なる有効活用方法について協議を行いました。これまではそれぞれが考えるまちづくりを単体で行うことが多く、今後は互いの考えを共有し、それぞれが得意分野を活かし連携していくことが重要と考え、2022年にまちづくり実行委員会が設立しました。MACHIMEGURIは様々な立場の人が参画しています。その分多様な意見が言われますが、時に相反する意見があったりします。その時にリーダーシップを発揮し、相反する意見をうまく調整するのは並大抵ではありません。このようなことが数多くあり、まちを動かすような事業になりました。また、この事業の最初の発想は、JCの良い部分を外の組織とも共有することから始まっています。硬軟織り交ぜ、同じ課題を共に考え、事業を構築し、成功に導いていく。この考え方を地域単位に広めたのがMACHIMEGURIです。



事業背景

様々な形でまちづくりに貢献しようとしている能動的な市民が数多くいます。そのつながりをより深めるためには企画だけではなく、組織も産業も超えて知恵を結集し、まちに人を集めるからこそできる富山ならではの社会実験等を実践し、経験する機会が必要だと考えます。能動的な市民同士が有機的に結びつき、社会実験等の実践、検証、継続が伴うことで発信力が増し、より多くの一般市民に伝播することで市民による富山の新たな価値、ひいては誰もが幸せなまちづくりに繋がります。



事業目的

(対内)
社会実験等を通じてつながりを深めることを目的とします。
(対外)
社会実験等を通じてつながりを深めていただくことを目的とします。



事業概要

コンパクトシティ政策の元、整備されたまち中の施設、交通インフラを活用した都市型フェスティバルです。富山の中心市街地を巡るLRTの各駅周辺で様々なイベントを産学官協働で開催し、富山市中心市街地をテーマパーク化しました。また、MACHIMEGURIの各開催年通した背景目的は上記のものですが、開催年ごとの背景目的、テーマ設定を設けることにより時代の流れに即した事業を行っています。

主なイベントは以下の通りです。

●●キャッスルソニック●●

「富山城」芝生広場に、ゆるりと楽しむ音楽空間プロ、地元歌手、学生が関わる現代らしいフェスを開催しました。

●●キッズパーク●●子供たちの感覚を大事にした、体験型の空間を制作しました。ベビーファーストの一場で親子さんのために、おむつ替えスペースやカフェを設置しました。キャッスルソニックと同じ会場で開催することで親子で楽しめる空間を演出しました。

●●ブルバール●●富山のナイトタイムエコノミーを考え、新たな2次会需要の提案として開催しました。整備されたブルバール(街路側のある大通り)を光と音楽、ファニチャー(家具)で空間演出しました。地元飲食店にも出店してもらい、新たな夜の楽しみを演出しました。



運動効果

富山城址公園をメイン会場として、3日間で1万人の動員を達成しました。富山中心市街地を対象とし、普段の週末人員を1としたとき2.2もの来日人数を達成しました。また富山城址公園は2.8、ブルバールエリアは7.1もの来日人数を達成しました。これにより多くの富山市民が非日常体験を経験し、シビックプライドの醸成や様々な教育・体験コンテンツを経て成長へとつながったと考えます。またまちづくりに携わる多くの事業者が共に行動したことにより、互いの良い文化を学び、取り入れることで協力関係を構築することができました。これにより今後さらに質の高い事業をそれぞれが構築することが可能になりました。また同日には富山マラソンが行われ7千人もの県外からの参加者が富山の地に訪れました。富山の魅力に参加者に見ていただくことで交流人口の増加や観光としての価値を高めマラソン以外にも富山に訪れたいと感じる一因となりました。

事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞 標葉祭り2023

一般社団法人浪江青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

開催場所が休校中となった中学校の校庭や体育館なので、町教育委員会や地元行政区などとイベント開催や施設借用に関する打ち合わせなどを密に行い、行政や地元住民を巻き込むだけでなく、東京電力や官民合同チーム、商工会青年部など大手企業や地域に幅広いネットワークをもつ方々とも協同して準備を進めました。たとえ無謀だと思える挑戦でも、目的達成への強い信念をもち、熱意をもって行動を起こせば理解者が現れ、地域を巻き込んで大きなうねりとなって運動が伝播されることを私自身が体感することができました。標葉祭り2024はメンバーのいない葛尾村での開催を予定していて、本事業とはまた違った角度からのチャレンジを行っています。0からのスタートという意味では同じことであり、継続事業でも違った視点から考えれば常に新たな付加価値をつけることができ、それに向かって挑戦することで地域を変えることができることをメンバーへ伝えられたと考えます。



事業背景

2011年に発生した東日本大震災及び福島第一原発事故から12年が経過し、活動範囲である標葉地域(浪江町・双葉町・大熊町・葛尾村)の三町一村において、除染やインフラ整備が進んで徐々に避難指示解除区域が増えている反面、町村ごと、また地域ごとに復興の歩みに差が出ており、それぞれ違った課題を抱えています。避難されている住民の皆さんの帰還が進まないことにより、標葉地域で先人たちが長きにわたってつなげてきた伝統や文化の担い手が不足し、次世代への継承が困難な状況にあること、震災前と比べて1/100ともいわれる居住人口の激減に起因する地域コミュニティの再構築など、課題が山積しています。地域住民が故郷に誇りをもち、いきいきと暮らせる地域となるよう地域活性化を推進するべく、地域住民の交流の場を創出する必要があると考え、事業実施に至りました。



事業目的

東日本大震災及び福島第一原発事故から12年が経過して、ようやく2023年3月31日に復興再生拠点区域として避難指示が解除された浪江町津島(つしま)地区は、居住人口が1桁台で、震災前の1/1000以下にも満たない地域です。そんな地域で1000人規模のにぎわい創出を行おうと無謀とも思える挑戦こそ、地域をより良くする意識変革する団体である我々JCが行うべきだと考えました。津島地区の伝統文化を随所にちりばめることで元住民の方が懐かしみ、新たに訪れた人たちが興味をもつことで、交流人口と定住人口の増加、長きにわたり継承されてきた伝統文化の継承、なにより福島第一原発事故による風評被害に対する津島地区の安全性を地域内外に発信し、地域活性化への道筋をつけることを目的としました。



事業概要

開催地である津島地区は、戦後、未開の山林や原野を切り拓いてきたことで、フロンティア魂が息づき、地域住民の結びつきがとて強い地域です。震災後、不条理な困難を前向きに捉え、「なければ作っちゃえ!」のチャレンジ精神で、これまでの経験を活かして違う分野を開拓し、発展させようとしている標葉地域の人々を重ね合わせ、この地で開催することを決定しました。事業を通じてフロンティア魂を表現するために、津島地区に伝わる伝統芸能の披露や太鼓早急競争や、標葉地域出身のアーティストステージ、これまで開催した際に出店いただいた事業者や、開催地の産品を販売する事業者を巻き込み、飲食・物販ブースが30店舗以上軒を連ね、地域の特産品や美味しい飲食物の提供ができました。さらに、震災後、12年間放置された津島小学校のピアノを修理・調律して、アーティストがピアノの音を奏でながら地域住民や子供たちと一緒に演奏や合唱する機会を設けました。



運動効果

避難指示が解除されたばかりの地域での事業実施ということもあり、地域におけるインパクトが大きかったのはもちろん、行動を起こし続けたいは具現化できるということをも多くのの人に伝えることができました。事業実施に不利な条件があったとしても一つずつ課題を解決していけば開催することは可能であり、多くの人に訪れていただくことができることが証明されました。実際に標葉祭り2023の後に津島地区において複数回地域住民の手による多様なイベントが開催されているということから、地域を変える一歩を巻き起こすことができたと考えます。また、事業でお披露目したピアノが、地域の交流館に設置され、パネル展示なども行われているため、ピアノの記憶の継承が行われているとともに、誰でもピアノで演奏できるため、ピアノを活用した交流イベントも開催されており、挑戦の連鎖が生まれていて、地域に好循環の輪が広がっていると考えます。

AWARDS JAPAN 2024

事業褒賞部門

最優秀LOM

個人能力開発プログラム賞

ドリームキッズシティ ISHIKARI2024

石狩青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

初開催となった前年度の参加者及び保護者アンケートの結果や市の反響から2度目の開催を決定、事業に反映しました。子供たちそれぞれが目的をもち、楽しみながら様々な職業を経験することで社会性や自主性を育むことができると考えました。またメンバーも楽しみながら様々な体験をする子供たちに触れ、「事業に関わって楽しかった」「とてもいい事業だ」と感じていただき、次代のまちづくりの担い手となる子供を地域全体で育む必要性や手法を学ぶ必要があると考えます。また、前年度開催時は協賛金を募り開催したが、今回は持続可能な事業作りの一環として事業内容に沿った助成金を探し、公益財団法人太陽財団の地域づくり助成事業にエントリーし、採択され助成を受けました(65件の応募の中から9事業採択)。その結果、費用対効果を最大化できました。



事業背景

前年度、子供たちの職業選択の可能性を広げることが目的に本事業を初開催いたしました。参加者や保護者からは、継続開催を望む多くの声をいただき、市議会の一般質問でも取り上げられるなど大きな反響を得ました。子供たちは教育課程が進むにつれて、将来に向けた進路選択を迫られますが、家庭や学校、習いごとなど日常生活環境の中から将来の自分を想像することは容易ではありません。だからこそ、地域の将来の担う子供たちが社会に興味を湧き、主体的に将来の自分の姿を考えるための体験の機会が求められています。



事業目的

石狩の将来を担う子供が多種多様な職業体験を通じて社会性を身に付け、将来の選択肢を広げることを目的とします。また、石狩JCメンバーが子供たちと触れ合い興味関心に触れ、現代の子供の趣味趣向を把握し、次代のまちづくりの担い手となる心豊かな子供を地域全体で育む手法を取り入れ次代につなげることを目的とします。



事業概要

様々な企業の職業が1つの場所で体験できる職業体験事業を開催しました。
※入場時にジョブガイド・市民証・市民証ケース・クリアファイル・500ドリーム・スキップバスを渡しました。
(職業体験)
1つのブースにつき体験5分～40分程度の職業体験を行い、給料として事業内通貨「ドリーム」を渡しました。
(消費体験)
事業内通貨「ドリーム」を使い、各ブースで体験や買い物をします。
保護者も飲食できるよう、保護者へのチケット販売を行いました。(500ドリーム×100)
事業開始後に保護者向けドリーム販売を開始しました。
(体験ブース)
時間が決まっていない空き時間に利用できる給料無しの体験ブースも用意しました。



運動効果

子供が保護者の手を離れ自分で働き方を考えお金を稼ぎ、自分の考えでお金を使うことができるこの事業で、近年ネガティブに捉えられがちな「働くこと」への意義が見いだせたのではないかと考えます。また、アンケートの「今回参加して石狩にはまだ知らない会社がまだたくさんあると思いませんか?」の質問では「思った」が96%という結果となっており、普段は顔が見えない地域の事業者との関わりができ、近くに感じられることで、将来進学で石狩を離れてしまうことがあってもリターンや消費につながるのではないかと感じました。

事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

MORIYAダイバーシティプロモーション

～私たち一人ひとりが居住地域から国際社会の課題解決を～
「あつまれ、未来の名探偵!～きみは真実を見抜けるか～」



一般社団法人茨城南青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

公式の打合わせは23回と、細かな打合わせは、対面とオンラインの両方を駆使し全39回と行ってきました。1月時点で構想は固まり、会場である廃校となった森や学びの里の下見を1月中旬に行い、その後は1～6月にかけてRAINBOW茨城やダイバーシティぼらりす、筑波大学TIAS、守谷市の校長会や守谷市市長、社会福祉協議会等のステークホルダーの各所と打合わせやリハーサルを重ねました。同時に、外部団体を巻き込んだ広報戦略にも重点を置き、守谷市と連携してデジタルパンフレットの拡散を通して、多くの参加者を募集しました。市内の各団体とも十分に連携できたことで、当日は、定員以上の参加者が集まりました。また当日は、守谷市の公式イメージキャラクター「こじゅまる」を招き、打合わせも含めて「守谷市」とパートナーになれたことで、シティプロモーションにも貢献しました。



事業背景

時代の変化に伴い、茨城南JCが存在する三市一町（取手市、守谷市、つくばみらい市、利根町）エリアでも女性や若者、高齢者、障がい者、外国人など多様な人々が住み暮らすようになっています。しかしながら、ジェンダーギャップ指数や障がい者雇用率を見ると、偏見や差別が実在することは明らかであり、まずは多様性や互いの個性、価値観を知り、一人ひとりをもつアンコンシャスバイアスに気付くことや、それらを受容する土壌をつくる必要があると考えます。



事業目的

(対外)
多様な人々がいることを知識として理解するのではなく、実際にどのような生活を送っているのか、その人々の価値観までも体感することであると考えます。そうすることで自身ももっているアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）にも気付き、多様性を受容する土壌をつくることであります。
(対内)
多様な人々が対等に住み暮らせる共生社会を牽引するJCとして、自身のバイアスに気付くとともに地域住民の価値観や現状、ニーズを把握し今後のより良い事業構築に活かすことであると考えます。



事業概要

守谷市の廃校にてダイバーシティアンドインクルージョン（以下、D&I）の体験型教育事業を実施しました。視覚教室、聴覚教室、ジェンダー教室、多文化教室、廊下クイズ、車いす教室という6つのセッションそれぞれの教室にテーマを分類し、多様性の理解と自身ももっているアンコンシャスバイアスに気付く体験を提供しました。クリアするとキーワードの一字を教えてもらい、全ての文字を並び替えてキーワードを完成させたら景品がもらえます。全てのゲームをクリアする段階で様々なアンコンシャスバイアスに触れ、幅広く理解されるといった流れで事業を実施しました。



運動効果

視覚教室、聴覚教室、ジェンダー教室、多文化教室、廊下クイズ、車いす教室という6つのブースにおいて、普段の生活では、当事者として知れないような価値観や考え方、五感の感じ方の違いに触れ、「自分の当たり前に感謝すること」や「他者の立場や気持ちの理解ができた」という声をいただきました。このことは、この地域の受容や共生の幅を広げる教育の一環として有意義です。地域での学校教育への導入を推薦する意見や市内の各所から事業の継続や協働の声をいただくなど、地域や時代の需要に合った取り組みであり、地域住民の刺激や学びとなったことは間違いないです。さらに、各ブースの担当者からの聞き取りによれば、ブース体験前後の参加者の感想・認識を比較すると、ブース体験後に「今度からは～しようと思う」や「～といったことに気付かなかった、初めて知った」など多くの気づきに触れることができ、日常生活の変化に寄する体験を提供できたと言えます。

事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞

NAGANO子供ゆめ体験会

～教えて!お兄さん・お姉さん～

公益社団法人長野青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

大人が変われば子供が変わる、子供が変われば未来が変わるという想いのもと、子供たちには様々な体験を通し、自身の可能性を広げていってもらいたいと構築した事業でした。日頃、小学校の授業では触れることが少なく、かつ多様性のあるジャンルをファンクションとして選定しました。例えばネイルアートでは女子だけでなく男子も楽しんでいる姿があり、3回目の保護者にレクチャーするプログラムでは父親にしてあげたという児童があり、性別に捉われない自由な発想をもって自分の好きなことを見つけてもらい、過去にバドミントンを習っていた経験があるも諸事情により辞めていた児童が、今回の体験を通じてまたバドミントンをやり始めたいと心情に変化が起こった児童もいました。その他にも「普段とは違う活動ができた」「新たな発見ができた」等の前向きな意見をいただきました。このように、子供たちが夢を見つける機会の提供を行えたことは、未来を担う子供にとって有益であったと考えます。また、講師にはプロを目指す地域学生の協力を仰ぎ、将来の自身の活動拠点となり得るよう指導してもらいました。地域学生達からは、次年度以降も事業へ参画したいという意思表示もあり、子供と地域学生双方に大きな学びがあったと捉えております。新規事業でしたが、今後もこのような機会の提供を社会全体で行える仕組みづくりを始め、長野市を代表する事業となるよう構築に努めます。



事業背景

青少年の健全な育成のためには、子供たちが様々なことを体験し、夢を見つけ、失敗を恐れず積極的に挑戦できる機会が必要です。しかしながら子供の置かれている環境は、多様化しており、その機会を充分に得られていない現状があります。だからこそ、子供たちが夢を見つけ、積極的に挑戦しようとする意欲を向上させる機会が必要です。



事業目的

(対外)
〈子供〉子供たちが夢を見つけ積極的に挑戦しようとする意欲の向上を目的とします。
〈保護者〉子供たちが何ごとにも積極的に挑戦することに対する支援の重要性を認識することを目的とします。
(対内)
子供たちが夢を見つけ、積極的に挑戦できる環境を創出する重要性を認識することを目的とします。



事業概要

子供たちに様々な体験をしてもらうために、「バドミントン」「ダンス」「イラストレート」「カメラワーク」「ネイルアート」5つのセッションの体験プログラムを実施します。全3日間のプログラムのうち、初日には2セッション、2日目は3セッションを体験し、最終日には子供自身が講師となり、保護者に体験したセッションのうち1種目をレクチャーしてもらいます。また、各プログラムの際には「ゆめノート」に記入してもらいます。講師は地域の大学生または専門学校生とします。子供たちと年齢の近い学生が講師をすることで、体験したセッションをより身近なものと感じてもらい、より子供たちが積極的に挑戦しようとする意欲の向上を図りやすくなることが期待できます。また、学生にとっても地域の青少年を育成する事業に積極的に参画することで、自身の将来への多様な可能性を感じていただく事業とします。



運動効果

未来のまちを担う子供たちが、成長過程において希望や自信をもち、能動的かつ創造力豊かに日常を送ることは、社会全体の活力源であり理想です。しかし、我が国は諸外国と比較して夢をもっている子供が少ないという統計結果が出ています。子供たちが夢を見つけ、失敗を恐れずに挑戦できなければ、活動意欲は低下し自律心を養うことができません。また、夢に向かい積極的に活動できる環境が整っていないれば行動に移すことも困難です。そこで当事業では、子供たちに対し、夢を見つける機会を創造するとともに、諦めることなく積極的に挑戦することの大切さを伝え、自己成長を促すことで未来のリーダーを育成します。そして、家庭だけではなく地域とも連携をとり、子供たちが持続的に夢を追いかけられる環境を構築することで、新しい時代や環境の変化に臨むことなく柔軟に対応でき、楽しみながら成長し続けることができる社会の実現に向けて確かな一歩踏み出せたと考えます。

AWARDS JAPAN 2024

事業褒賞部門
最優秀LOM
拡大開発プログラム賞

2月例会 財政局拡大会議アワー

「第3回マッチングプレゼンテーション~それぞれの熱海をつなげよう~」

一般社団法人熱海青年会議所

~事業にかける想い、工夫、こだわり~

本事業の立案は、2023年の11月頃から始まり、例会中に多くのゲストを呼び公開された例会を2月に開催することになりました。12月の例会後の懇親会にて、OBの方にその旨お話をしたところ「折角、人を集めるのだったら何か事業にした方がいい」とのことです。本事業を開催することになりました。12月の正副執行部予定者会議にて初上程をし、委員長(本年度は会議体のため議長)としてはゲスト参加者の目標を10名程度としておりましたが担当副理事長が20名を目標と公言しましたので、その場での懸念事項としてはゲスト参加者がそれだけ集められるのかという点でした。正副執行部だけでなく理事メンバーで先にゲスト勧誘に向け動き、現役会員全体にも依頼し、兎に角ゲストを集めることに注力いたしました。会員拡大用のホームページを作成し、本事業の審議に先駆け、部分審議を理事予定者会議中にとり、本事業開催に向け公開し、ゲスト勧誘を始めました。



事業背景

JCは年齢制限のある団体であるため卒業者が出てしまいます。2024年度の期首会員数については、23名であり、また、本年度の卒業者は3名いるため、次年度以降は、予算と人員ともに非常に厳しい状況になると考えられます。そのため、本年度は会員拡大に注力することが重要であると考えます。会員拡大をするためには、現在の熱海の状況を把握する必要があります。まず、熱海は様々な地域からの移住者が多いです。現会員でも8名が熱海市外からの移住者あるいは、市外からの会員です。次に、熱海市内のOBのご子息ご息女を会員にするにしても熱海市外で就職して市内に居ないという現状です。そこで、会員拡大をするには移住し、起業した方や就職した方を獲得するのが最善であると考えます。しかし、移住者や熱海で起業や就職した人からすると、熱海JCが何をしている団体かわからない人が多いです。そこで2021年度より開催しているマッチングプレゼンテーションが熱海JCの周知活動の鍵を握ると考えます。



事業目的

最終的な目的としては、会員拡大であるが、その過程として熱海市内の移住者や、就職のために移住してきた方々に熱海JCという組織の存在をアピールしつつ、現役会員においても熱海に移住してきた方が行なっている事業や、市内の企業の事業を理解し、お互いの情報交換することで、現役会員とゲストとのつながりをつくるのが本事業の目的となります。また、2021年度2022年度と開催してきたマッチングプレゼンテーションという、現役会員全体で行える継続的な会員拡大活動を確立させることが本年度の本事業の目的であります。



事業概要

事前準備としてその会社の「紹介、PR」、「発注したい、買いたい、お願いしたいこと」「受注したい、売りたい、任せてほしいこと」「連携したい、相互利益、人材募集」「個人的な趣味・特技、なんでも」を設問としたGoogleフォームを作成し、現役会員、外部監事を対象として、フォームへの記入をしていただきました。また、前年以前の会員拡大候補者のリストを参考に連絡を取り、本事業へのゲスト参加を勧誘し、同フォームへの記入をしていただきました。また、リストになかった方でも現役会員が声を掛けてみたい方にも勧誘をしてもらい、同フォームに記入をしていただきました。記入していただいた内容を委員会にて集計をし、冊子を作成し、事業当日に配布しました。事業当日は、現役メンバーに登壇してもらい上記内容を参加者に向け発表してもらいました。また、ゲスト参加者にも希望者がいれば登壇し、発表していただきました。その後、名刺交換の場を設け直接的な交流を図りました。



運動効果

本事業に参加いただいたゲストの方の中に、熱海の特産品である橙を収穫し、それを観光資源へと育てたいと計画している方がいました。また、そのパートナーを探しているということで、本事業に登壇もしていただきました。本事業においては、そのパートナーとなり得る方が現役会員からはいませんでした。橙以外にも熱海には特産品があります。また、未利用魚といった全国的な問題もあります。そういった問題を抱えている企業と、それを活用しようとしている方との結びつきのきっかけが、本事業でできれば地域社会にも多くのメリットを創出できると考え、本事業を開催いたしました。

事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム賞 異業種交流会2024

一般社団法人おおさき青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

本年度の会員拡大の目標を20名以上と設定しました。過去の異業種交流会の議案を確認した結果、40歳以下の会員候補に絞ると規模が小さくなり、参加者とメンバーのビジネスマッチングの機会が限られるという反省点がありました。そのため、理事会で理事メンバーも含めて、100名以上の大規模な異業種交流会を開催することを決意いたしました。



事業背景

明るい豊かな社会の実現には、同じ志をもつ多くの青年の参画が求められる中、現在のおおさきJCには45名の会員が在籍している一方で、2年後には、全体の3割にあたる17名が卒業を迎えるのが現状です。地域の明るい未来を実現するのならば、我々は常に仲間を増やし続け、持続可能な組織であり続けなければなりません。志を同じくする未だ見ぬ青年を発見する機会が必要です。



事業目的

- ① 拡大リストのアップデートを行います。
予定者段階での会員候補者拡大リストが80名程度で既に一度声をかけた方が多く、今後の拡大を進める上でのアップデートの更新を目的とします。
- ② 会員の20名以上の入会に着目します。
所信に掲げる20名以上の新入会を目的とします。
- ③ 地域を想う仲間の増加を図ります。
おおさきJCの事業や活動について40歳以下の青年に限らず様々な地域の方に興味をもっていただくことを目的とします。



事業概要

「異業種交流会2024」は、地域住民100名を対象とします。交流会では、我々の活動の一部を紹介し、人脈作りのメリットを提供することで、質の高い会員候補者を募ります。また、おおさき地域の青年が当会議所に入会するきっかけを提供することを目的としています。参加対象者は40歳以下に限定せず、勧誘をメインとしない方針です。さらに、参加する経営者の方々には、自社の幹部候補生の入会を促していただくことも考えています。

事業詳細

① 理事長挨拶、花火大会実行委員長挨拶、理事長より参加者へ挨拶、JCがどういった団体であるかの説明と、仮会員制度の説明及びおおさきJCが昨年行った事業の紹介を行いました。花火大会実行委員長より花火大会の意気込みと昨年の協賛の感謝と今年の方針を伝えました。

主催者として挨拶を含め、どのような組織なのか、どのような想いで活動しているのかを参加者に知ってもらいます。

② 各企業紹介 各企業からPR時間をとることで、参加者とメンバーにビジネスマッチングの機会を提供します。

③ おおさきJCPRブースの設置 PRブースを設置して、おおさきJCの活動を地域に広め、また会員候補者に団体の理解を深めていただきます。



運動効果

おおさきJCが主催した異業種交流会は、地域社会に多くのプラスの影響をもたらしました。異なる業界のプロフェッショナルが一同に会することで、新たなビジネスチャンスが生まれ、地域経済の活性化に寄与しました。また、参加者間のネットワーキングを通じて、地域コミュニティ内での協力関係が強化されました。これにより、地域の課題に対する共同の取り組みが進み、住民の生活の質が向上することが期待されています。具体的には、精肉店を営むメンバーと参加者の農家の方がビジネスマッチングし、バーベキュー事業が立ち上がりました。HP会社を営むメンバーと企業がビジネスマッチングし、HPを製作し、地元の企業を発信する機会につながりました。メンバーと参加者で、JC以外に「おおさき1000のビジネス実行委員会」を発足しました。この委員会では、大崎市からの予算を受けてスタートアップ企業を応援する事業を立ち上げることにつながりました。・アンケートや口頭で「またやって欲しい」や「田尻(他の地域)でも同じようなことをしたい」など、インパクトがある事業だったので運動が広がったと言えます。

6月オリエンテーション

『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』

公益社団法人春日井青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～



6月オリエンテーション『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』は、ゲストをたくさん呼ぶ、LOMメンバーをたくさん呼ぶことを最大の目的とし、注力いたしました。そこで生成AIという世間で話題のツールを事業で使用することで、集客に生かしました。ゲストに参加していただいたら、入会に導くために短時間でゲストのことを知り、交流するというのが次の目的で、ゲストの他己紹介を交流するための仕組みに取り入れ、運動効果を最大化できるよう工夫しました。



事業背景

私たちは、JC活動をする上で様々な責任を兼務することから、会社や家庭・JC活動を両立できず、他方の役割が疎かになることがあります。仲間との関わりが少ないことで、現状を知られておらず、仲間に頼れない、解決策が見出せない理由で、両立を諦めてしまう人も見られます。全てを両立させるためには、仲間との関わりを増やし、新しい技術に触れ、時間をつくるための方法を知る機会が必要です。



事業目的

(対外)
本事業では、春日井JCやLOMメンバーを知っていただき、入会していただくことを目的とします。
(対内)
本事業では、入会候補者とLOMメンバー間の親睦を深めることを目的とします。



事業概要

JC活動をする上で、様々な責任を兼務することから、会社や家庭・JC活動を両立できず、他方の役割が疎かになることがあります。全てを両立させるためには、仲間との関わりを増やし、新しい技術に触れ、時間をつくるための方法を知る機会が必要とすることを受け、生成AIのことを学び、また初心者でも活用しやすい『画像生成AI』を事業内で実践することで、より身近に感じていただくこと、参加者同士の交流も同時に育むことで、学びと交流を掛け合わせることで、春日井JCへの入会に導くことを目的にしました。



運動効果

今回学んだchatGPTをアイデアだしに使用することや、契約書などの作成を社業で使用するという方が増えていきます。また、Canvaの画像生成を使用し、ロゴマークやデザインを社業で使用したり、プライベートで使用したりという方が増えていきます。人が手間をかけて行っていた作業を生成AIで補うことで、一定の生産性の向上が期待されます。生成AIは今後も進化を続けていきます。生成AIを活用した方は、今後の社会での活躍が予想され、6月オリエンテーションでは生成AIの活用を学ぶきっかけになることができたと確信します。実際に、事業後に生成AIを積極的に使い始めて、仕事がかかり捗るようになったという報告をしてくれたLOMメンバーや、画像生成AIの面白さを知ってハマってしまったという話もあり、この技術がJC活動のどの部分に活かせるのかという議論になることもあり、まさに、「家庭」「社業」「JC」に忙しいメンバーが、時間をつくるための1つの方法として浸透し始めていると確信しました。

AWARDS JAPAN 2024

事業褒賞部門
最優秀LOM
国際協力プログラム賞

姉妹JCとの人材交流事業

公益社団法人金沢青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

参加した学生が異文化理解を深め、グローバルな視点をもつリーダーとして成長することで、今後国際社会における課題解決へと積極的に関与するようになります。またJCメンバーや学生間で築かれた国際的ネットワークが継続し、将来的な協力関係やプロジェクトの共同実施が促進され、異文化理解と相互信頼の構築により、地域や国際社会における平和の実現に寄与する人財が増加します。さらに国際的な経験をもつ若者たちが地域社会に戻り、その知識と経験を活かして地域の発展に貢献し、大学や教育機関との連携が強化され、質の高い国際交流プログラムが定期的な実施されるようになります。



事業背景

近年、国際関係における緊張が高まりつつあります。将来に亘り、平和な社会を築いていくためには、次代を担う青少年が他者と互いの考えを伝え合い、信頼関係を築く重要性を理解する必要があります。一方で、それを学ぶための直接的な交流の機会は減少傾向です。次世代を担う青少年が異なる文化や考え方の違いを認識する機会の創出が必要です。



事業目的

(対外)
青少年に相互理解のために異なる文化や考え方の違いを認識してもらうことを目的としました。
(対内)
金沢JCメンバーに相互理解のために異なる文化や考え方の違いを認識してもらうことを目的としました。



事業概要

(対外)
海外事業:大学生に対し、国際的なビジネス感覚を身に付けてもらい、異文化コミュニケーションにより相互理解の実現を目的として、事業を実施しました。JCIオースティンベルダナの協力のもと、マレーシアのクランにある企業5社に対し企業訪問を行い、現地の経営者と交流プログラムを実施しました。
国内事業:大学生に対し、国際的なビジネス感覚を身に付けてもらい、異文化コミュニケーションにより相互理解の実現を目的として、事業を実施しました。金沢JCメンバーの協力のもと、金沢市にある企業2社に対し企業訪問を行い、経営者と交流プログラムが実施されました。
(対内)
交流事業の内容を対内メンバーに共有し、相互理解のために異なる文化や考え方の違いを認識してもらいました。



運動効果

①地域の学生が異文化交流を通じて国際的な視野を広げ、地域全体に異文化理解の重要性が浸透しました。
②参加学生がリーダーシップを発揮し、地域の若者たちに模範を示し、積極的に社会貢献する姿勢を育みました。
③地域の企業や教育機関が国際ネットワークをもち、地域全体のグローバル化が進展しました。
④企業訪問を通じて地域のビジネスが国際視点を取り入れ、新たな経済発展の可能性が広がりました。
⑤築かれた国際的なネットワークが、地域の継続的な交流と協力を促進し、地域の発展に寄与します。

第3回 目黒グローバルフェスティバル

公益社団法人東京青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

事業の調査・立案に際しては、目黒区において外国人住民が増加している中で、どのような課題があるかについて行政や当事者へのヒアリングからスタートしました。ヒアリング結果を元に、「地域と外国人コミュニティの連携不足」「災害時の外国人支援の機能不全」という課題を特定し、ステークホルダーと解決策の検討を実施しました。また、複数回の実行委員会を開催し、行政、消防署、国際ボランティア学生協会との協議を踏まえ、企画内容の詳細を特定した。企画当日は実行委員長の統率の元で、各ステークホルダーの役割分担を明確にし、事前に定めたタイムスケジュール通りに、企画を実施いたしました。



事業背景

災害時、外国人は言語の壁や、災害や避難に関する知識や、経験が不足していることで適切に避難できない場合、「避難行動要援護者」となり、行政として円滑な避難や避難所での暮らしを支援することが求められます。目黒区は近年高度人財を中心に外国人住民が急増しており、多くの大使館を区内に抱えるが、災害時における外国人コミュニティの支援体制について取り組みが不足している懸念がありました。区内の外国人学校にヒアリングを行ったところ、自主的な防災訓練や備蓄品の確保について実施されていないことも分かり、学校としての災害に対する対応力が低いことが判明しました。また、目黒区では、災害が発生した際に、日本語のわからない外国人区民等を支援するために「防災語学ボランティア制度」を設けています。しかし、平時の活動は目黒区主催の総合防災訓練だけであり、またその参加者も少人数であることがヒアリングから判明しました。上記ヒアリング結果を踏まえ、災害時における外国人への支援を目的とした事業の必要性を認識いたしました。



事業目的

- ①防災を起点として、外国人、地域、行政が協働することで、地域全体としての防災力の向上を図ります。
- ②外国人が自助・共助の担い手として地域で活躍することで、多文化共生社会の実現を目指します。
- ③目黒区の外国人支援ボランティア制度と連携することで、より効果の高い災害対策を構築します。



事業概要

本事業では外国人学校において2部制に分け、防災教室、保存食試食会、災害体験といった防災啓発事業を開催しました。また、学んだ防災知識を活用し各生徒の自宅の防災対策について確認できるチェックシートを配布し、後日シートをもとにした発表会を開催しました。

(1部)
区内の外国人学校である東京インドネシア共和国学校において、生徒たちが自主的に災害時行動できるよう防災教室を開催、また最新備蓄食を試食することで防災意識の向上を狙いました。

(2部)
目黒消防署に会場を移し、起震車、消火器、煙ハウス、VRなどの災害体験をすることで防災意識の向上を狙った。また1部で学んだ防災知識を活用し自宅の防災対策について確認する機会を創出いたしました。



運動効果

- ①インドネシア共和国学校の防災力の向上
本企画後に物品協賛して頂いた事業者と学校で非常食の納入について検討が進み、これまで備蓄品の用意が一切なかった学校の防災力の向上が見込まれます。また、本事業を契機として、目黒区長より区として東京インドネシア共和国学校と防災面での連携を図る旨発言がありました。具体的内容については今後検討予定です。
- ②地域の防災力向上及び連携強化
近隣町会である小滝町会と学校にて来年度以降の防災訓練を行うことが決定しました。これまで両団体の関係は希薄だったが、本事業を契機として連携の強化が確認できました。
- ③目黒区防災語学ボランティアの活動機会の提供
これまでのボランティアの活動機会は年に1度の総合防災訓練のみであり、参加者も最大2名のみであったが、本事業においては、防災語学ボランティアから5名の参加がありました。
- ④目黒消防署の新人研修の充実
本事業の企画協力(消火器の使い方指導及びVR体験)を通じて、新人署員にとって外国人に対する消防指導の機会となりました。

事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム賞

インターナショナルホスピタリティ事業 (国際交流事業 & 国際災害訓練事業)

一般社団法人宮崎青年会議所



～事業にかける想い、工夫、こだわり～

国際交流協会とやり取りをしていく中で、自分たちだけでなく、様々な人とサッカーで交流したいと感じている外国人が多いということが分かり、宮崎JCが九州地区サッカー大会を本年主管することが決まっていたため、そこで交流試合ができれば、という話から立案しました。そこで、ただ交流試合をするだけでなく、宮崎県は災害のリスクが高いこともあり、同時に防災訓練ができないかというところから、同時開催することとなりました。また他のLOMでもこの事業を参考に実施したいと言う声が多くこのような事業を実施し在住外国人と日本人をつなぐきっかけになっていただければ幸いです。



事業背景

ここ数年宮崎県ベトナム人協会との密接な交流事業は、お互いに貴重且つ意義のあるものになりつつあります。ベトナム人同士の試合だけでなく、他団体との試合もしてみたいという声を聴き、今回の国際交流事業の実施に至りました。また、2024年能登半島地震を受け私たちの住み暮らす宮崎でも南海トラフ地震の心配がされています。ですが、私たちJCメンバーを含め市民、そして在留外国人が災害時にどの様に対応して良いのか理解していないのが現状です。そこで、今回の国際災害訓練事業の実施することになりました。



事業目的

コロナ禍が明けた今、これまで活動を実施していた交流事業を今一度、取り戻すための懸け橋となることを目的とします。また、外国人が災害時にどの様に行動して良いか理解していただくことを目的としました。



事業概要

- ①【宮崎県ベトナム人協会と宮崎学園女子サッカーチームの親善試合】
開会式終了後に親善試合を実施しました。ベトナム人協会のメンバーが、急遽2人不参加になりましたが、LOMメンバーで不足人数を補填する形で対応しました。親善試合は両チームとも怪我もトラブルもなく円滑に進み、スポーツマンシップに則った内容でした。
- ②【災害時を想定した炊き出し体験】
日本赤十字社宮崎県支部、宮崎市社会福祉協議会の監修のもと、外国人の方々と協力して実際に災害が起きた際に被災者に提供されることのできるカレーライスを調理し、災害時提供される日本の炊き出しを体感していただきました。フットボールセンター内では、サッカー大会参加者向けにガス鍋や灯油鍋を使い、三納代広場では、一般の方を対象として、現地に設置してある防災かまどベンチを利用して炊き出し訓練を行いました。炊飯は日本赤十字社から提供していただいたハイゼックスと、宮崎市社会福祉協議会と新富町総合交流センターきらりから貸していただいたガス炊飯器を使用しました。
- ③【R6年石川県能登半島地震 災害募金活動】
フットボールセンター内の大会受付とカレー炊き出し会場に募金箱を設置し、募金活動を行いました。
募金総額は¥12,285となり、全額日本赤十字社宮崎県支部に寄付いたしました。



宮崎学園高女子サッカー部

試合を通じて交流を深めたベトナム人実習生チームと宮崎学園高女子サッカー部

技能実習生とプレー

運動効果

国際交流という観点だけでなく、国籍、年齢、性別を越えた今回の親善試合はとて多くの意義、価値を観戦する方々に与えたと感じています。カレーライスの炊き出し訓練も、参加していただいた外国人の方々に、有事の際の食事について考えていただくきっかけになりました。普段見ることができない災害時の食事提供で使用する器具にも触れることができ、勉強にもなったとの声もいただきました。

AWARDS JAPAN

2024

最優秀会員賞

最優秀会員

公益社団法人東京青年会議所 西川 恭央 君



～受賞スピーチ内容～

公益社団法人東京青年会議所、国際フレンドシップ委員会委員長の西川です。本日はこのような名誉ある賞をいただき、本当に感謝しております。これも全て高木理事長が、国際の機会、そして成長の機会ということで、私たちの委員会に色々なチャンスを与えてくれたこと、そして仲間、キャビネットのメンバーが失敗をしても恐れるなとサポートしていただき、そのフォローもしていただき、色々なチャンスをいただきました。一人で進めば早く進める、けれど仲間となら遠くに行ける。この言葉を今実現できたと思います。これからも仲間と一緒にさらに進み続けチャレンジしていきたいと思っております。この度はありがとうございました。

AWARDS JAPAN

2024

事業褒賞部門

最優秀地球環境プロジェクト賞

事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞 つながろう!耕作放棄地再生プロジェクト



公益社団法人新大隅青年会議所

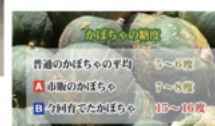
～事業にかける想い、工夫、こだわり～

本事業には、まちの課題を魅力に変えたい!という想いがありました。この地域にある耕作放棄地、実は豊かな資源である場所を活用して、循環型農業に取り組もう、そのことをみんなで学び共有しよう、という想いで10ヶ月間のプロジェクトを立ち上げました。野菜の植え付け、収穫は青少年育成事業として、シニア世代の方、障がい者の方と行いました。収穫した作物は学校給食、地域への配布、国体、45周年記念事業と式典で活用しました。「利他の心でつながろう」のスローガンのもと、多くの方とつながり、今後の展開にもつながる事業となりました。



事業背景

この新大隅地域(鹿児島県志布志市、大崎町、曾於市)には、世界から求められている豊かな資源が眠っていますが、その魅力に気づかず、最大限に活かし切れていない現状があります。一次産業が活発なこの新大隅地域で、この魅力ある資源を活かした、循環型で環境にも優しい持続可能な一次産業の在り方や可能性を考え、官民や業種の枠を超えた新たな取り組みや新たな価値を創造する必要があります。



事業目的

(対内)
農業の視点から見たまちの課題や現状を知り、農業を実際に体感して、循環型で持続可能なまちづくりを様々な人とつながって行う機会を得ます。

(対外)
耕作放棄地や廃棄されている資源を有効活用することで、持続可能で循環型の農業ができることを認知してもらい、官民や業種の枠組みを超えた取り組みのきっかけをつくれます。



事業概要

1月から10月までの期間で、3部構成で事業を行いました。まず、農業者の高齢化や後継者不足が増加している耕作放棄地は、残留農薬が少なく微生物が豊富な魅力的な土地であること、一次産業の生産過程で出て廃棄処理されている酒かす、家畜の糞、生ごみは肥料として再利用できることを知る座談会を開催しました。次に、実際に耕作放棄地で酒かす、豚ふん、生ごみ、堆肥として使った土づくりを行い、かぼちゃとさつまいもの栽培を行いました。その際に、土壌微生物診断で圃場の変化を計測するために土壌微生物検査も実施し、植え付け時と収穫時の土の変化も計測しました。そして収穫を行い、作物を座談会と国体で試食し、学校給食や児童養護施設に無償提供しました。また、45周年記念事業・式典でも地域の方に調理していただきました。その際に、耕作放棄地を活用して循環型農業で育てた作物であることも伝えました。SNSやYouTube、地元メディアや新聞でも今回の取り組みを発信でき、多くの方に必要性や重要性を伝えることができました。



運動効果

多くの方とつながり、耕作放棄地を活用した循環型農業ができたことに感謝しています。今回の土壌診断で、耕作放棄地は元々微生物が豊富で、循環型農業の土づくりでさらに増えたことが分かりました。そのような畑で作られた作物は美味しく栄養価も高いです。このプロジェクトを通して、地域の課題を魅力に変えることができ、育てた作物を食べることで健康な身体づくりにもつながることがわかりました。給食で興味をもった生徒が夏休みの自由研究にしてくれました。家庭菜園や畑を借りて取り組んでみたいという人も現れました。メンバーが一丸となり、1年を通して活動や広報を行ったことの成果だと思えます。事業の翌年には、有機野菜を地域に広げたいという有志の会ができ、役場での有機野菜販売の運営が始まりました。また、秋からは行政と共に、地域や都会の方向けに耕作放棄地での循環型農業体験として畑の貸し出しも始まります。今後もますます取り組みを広げていきます。

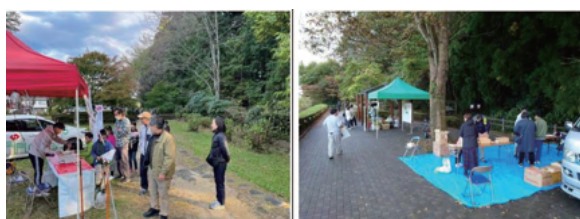
事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞

エネ×そばナイトフェスタ ～エネルギーと食の地産地消～

一般社団法人日光青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

4月には日光市の事例やカーボンニュートラル、自然エネルギーに関する調査を行い、子供向けにGXを知ってもらふ事業を開催し、大きな反響をいただくことができました。本事業ではさらに、日光市の現状や課題を深掘りし、日光市で自然エネルギーを活用し、国際観光文化都市として、日光市が環境先進地域として価値を高めることを目的として、本事業を構築しました。審議可決後、主に地元小学校へ広報を行いました。会場に近接する日光市立今市小学校の5年生・6年生及び栃木県立今市工業高校の生徒向けに、自然エネルギーの事前学習会と事業当日に使用する灯籠作成会を開催しました。参加者としてではなく、設え側として協力していただきました。また、地元PTAと市役所環境森林課に協力を依頼し、共同開催を行いました。事業後も継続して公園及び水力発電装置を利活用していただけるように努めました。



事業背景

自然エネルギーとは無限に利用することができる資源です。しかし、今はその資源を利用せずに無駄にしてしまっているのが現状です。まだまだ課題は多く、安定したエネルギーの供給や地産地消を遂行するには、大容量蓄電池の開発や設備の低価格化など更なる技術の進歩が必要です。加えて令和5年4月に日光市が第3回脱炭素先行地域に選ばれたことで国際観光文化都市・日光において行政、市民、企業、教育等各種団体を巻き込み、連携しながら脱炭素戦略を加速していくことが必要です。



事業目的

エネルギーと食の地産地消で、地域の循環を考え持続可能な日光へ変換していくこと、そして、利用可能な資源、人、地域を組み合わせることで自然エネルギーの新たな価値を見出すことを目的とします。なお、各対象者への目的は次のとおりです。

- ①事業パートナー(小学生)
食を通して地球温暖化の脅威を学び、楽しさから再生可能エネルギーの可能性に触れることで、地球の未来を考え、地域のために行動を起こしていく必要があるという意識をもってもらいます。
- ②事業パートナー(工業高校生)
未来の技術者として良いモノを創造するだけではなく、需要のあるものづくりが地球を守り、地域の未来を創る可能性があることを認識してもらいます。
- ③公園利用者
特に農村地域・過疎化地域において、自然エネルギーの有効活用や活性化の方法、田畑等で引いている水路の有効活用などのきっかけや気づきを与えます。



事業概要

日光市には他の地域と比べて利活用できる沢や水路が数多くあります。その水量を活用することで水力発電として安定した電力の供給が可能です。本事業で会場選定した杉並木公園は、国の重要文化財と天然記念物の双方に登録されている「日光杉並木」に隣接し、また、実際にそば粉を挽くことができる直径4mの水車が設置されており、そばのまちとして、そして水資源あふれるまちとしての日光を象徴する公園です。杉並木公園には、10年前に日光市、栃木県立今市工業高校、角野製作所の三者協定により設置された小型水力発電装置が整備されましたが、現在は利用する人もおらず、放置されている状態であり、これを利活用する方法を創出いたします。また、小型水力発電装置及びEV車の電気を使用し、そばづくりの電源、大型水車のライトアップ、そしてイルミネーション及び公園内の薄暗い道を照らす導線の設置を行いながら、公園の利活用を行います。あわせて、日光市のそば(食)を通して、環境問題に触れながら再生可能エネルギーの可能性を向上させます。



運動効果

一緒に協力してくれた団体の方が「来年はこの公園で私たちがこういう事業をやりたい、いや、やります」と自発的な意見を出してくれていたのが良いきっかけを与えることができたと思います。そして、地域住民の方からの「ありがとう」という言葉をいただくことができ、地域の循環に関してもいい影響を与えられたと思います。将来世代への問題提起を行うことができ、自然環境への関心を育むことができました。自然エネルギーや環境に関する問題だけでなく、多くの地域課題を共に解決することができる世代の異なる同士を得ることができ、LOMとしてもより一層多様な手法を採ることが可能になりました。

GREEN HALLOWEEN IN YOKOHAMA

一般社団法人横浜青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

GREEN HALLOWEEN IN YOKOHAMA は2050年までに脱炭素化を目指すZeroCarbonYokohama実現への仕法の一つとして行われました。参加した多くの幼児、小学生は実現時には成人を迎えている年代です。まさにこれからの脱炭素社会を担う世代に対して、身近な事例と体験を通じて、初めの一步を学んでいただきました。本事業で学んだクリーンエネルギーの活用手法などを参考にしうえで、異なるアプローチ手法により脱炭素社会への知識、意識の向上につながる事業の構築を行ってまいります。



事業背景

子供たちへ希望を感じる明るい未来を残すために、限りある資源を有効活用すること、カーボンニュートラルの強力な推進が求められています。横浜市は2050年までに脱炭素化を目指すZeroCarbonYokohamaを宣言いたしました。しかしながら、市民及び市内企業への浸透はまだ充分とは言えない状況にあります。ゼロカーボンシティの実現に向けて、地域の資本、資源、エネルギーの好循環をさせることにより、地域の未来に希望を実感していただく必要があります。



事業目的

- ①クリーンエネルギーの自給自足によるゼロカーボンシティ実現への取り組みを知っていただくことを目的といたします。
- ②資本や資源を地域で好循環させることを目的といたします。
- ③地域の眠っている資源を見直すことで、まちの賑わいを創出することを目的といたします。
- ④将来的に社業や生活においてクリーンエネルギーを導入いただく機運を高めることを目的といたします。
- ⑤今後の活動や社業を通じて、カーボンニュートラル及び循環経済を実践していただくことを目的といたします。



事業概要

米軍接收地返還に伴う新しいまちの創出と歴史の継承今日に至るまで返還されていない約43ha(東京ドーム約10個分)の米軍根岸住宅地区ですが、平成27年には米軍関係居住者がすべて退去しており、今後返還がされた際には土地区画整理事業が行われ、新しいまちが誕生します。令和4年9月の横浜市地球温暖化対策計画に記載ある通り、米軍施設の跡地利用に伴う脱炭素の推進が横浜市の重点取り組みになっております。また実施会場である根岸森林公園のドーナツ広場には旧根岸競馬場の一等馬見所が残存しておりますが、現状は保存利活用の方向性も見だせておらず眠った資産となっております。これから誕生する新たなまちに、時代の進歩(クリーンエネルギーの自給自足)と歴史の継承(接收の歴史、一等馬見所の歴史)を融合させ、また地域内の資源資産を循環させることにより新たな価値を創造し、まちに賑わいを創出すべく事業を行います。



運動効果

未来の横浜を担う子供たちがクリーンエネルギーの作成や、ライトアップなどの使用方法を楽しみながら学ぶ機会を提供することができました。現在幼児、小学生の子供たちやそのご家族が、横浜市が宣言した2050年までに脱炭素化を目指すZeroCarbonYokohamaを考えるきっかけとなることに影響を与えたと考えます。また身近な循環経済の事例を、体験を通じて学んでいただくことにより、日々の生活においての資源の有効活用に対する意識づけもできたと考えます。

AWARDS JAPAN

2024

事業褒賞部門

最優秀組織改革プロジェクト賞

事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞 新入会員アカデミー事業



一般社団法人高槻青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

高槻JCの直近5年の新入会員向けの研修の実施状況を調査しました。年度によって実施している状況はまちまちでありましたが、やっているとしてもJCIプログラムを受けているだけで、新入会員にどうなってほしいのか、何を学んでほしいのか、何を経験してほしいのか等を整理されていなかったことを把握しました。一方で、他LOMではどのような新入会員向けの研修を実施しているのかをヒアリングする中で、大規模LOMでは、新入会員向けの研修制度がきちんと整備されていることを把握し、今後高槻JCが拡大を目指す中で、大規模LOMの制度を参考にアカデミー制度を構築していくことを決意いたしました。



事業背景

高槻JCでは、入会した新入会員に対しての研修制度が確立されておらず、年度によって新入会員に対するJCの理念や活動意義といったことへの学びの機会が統一されてきませんでした。組織としての新入会員へのフォロー体制がなかったゆえに、活動頻度に差が出たり、最悪は退会してしまったりするなど、拡大に取り組んだとしても組織の底上げが続かない課題がありました。そこで、新入会員がJCに必要な意識や知識、能力を入会してから直ぐに獲得し、より前向きにJCの理念を理解したうえで活動することにつながるために、主に新入会員に向けた「アカデミー制度」を確立する必要があります。



事業目的

(新入会員)
JC活動をする上で必要とされる一定の知識と意識を得た中で、JC活動に前向きに取り組む活動意欲を向上し、さらなる活躍を促すことを目的とします。
(既存会員)
あらためてJC活動で必要とされる知識と意識を再認識し、JC活動に前向きに取り組む活動意欲を向上し、さらなる活躍を促すことを目的とします。



事業概要

入会時期ごとに期生を分け、それぞれの期生ごとにSTEP.1～STEP.3までの研修を実施し、その上でSTEP.4として模擬理事会に向けた講義を新入会員が中心となって作成し、各期生の卒業企画として事業を実施しました。これまでは、年度内であればいつでも入会できましたが、アカデミー制度の確立とともに、1月入会を1期生、3月入会を2期生、5月入会を3期生、7月入会を4期生とし、それぞれ3回の研修と卒業企画としての事業を行いました。3回の研修では、JCの理念の理解や基礎知識を習得し、自身の背景・目的・課題を見つめ直すことでJCの活用方法や、自身の活動意義を見出しました。そして、実際に議案を作成し模擬理事会を経て、各期生の卒業企画としての事業を新入会員が企画と当日の運営まですべて行いました。また、事業にあたっては、「奉仕・修練・友情」の3信条に「探究」を加えた4つのテーマをそれぞれの各期に振り分け、JCの魅力や活動意義を理解する機会を提供していくことで、次年度に向けての活動意欲を高め新入会員が既存会員を巻き込むこともできる実施内容を行いました。

<Step1 インサイト(気づきを得る)> 歴代理事長に講演をいただき、自身がJCで体験してきたことを通じて、JCで活動する上での背景・目的の明確化、事業構築への興味関心、JCの有益性の理解、取り組み姿勢や参画意欲の向上を取得します。<Step2 クリア(目的を明確に)> ヘッドトレーナーである特別会員にJCプログラムの「Purpose」を実施いただき、自身の目的・目的の設定とJC活動・運動に動むための目的の設定、JCの基本理念・活動意義への理解、運動の魅力を理解します。<Step3 ベース(基礎取得)> 担当委員会の委員長が講師として、セミナーの理解浸透、JCでのルールやマナー、組織体制や出向の魅力など、JCの基礎知識を習得します。<Step4 プレイ(実際にやる)> 各アカデミー生が「奉仕」「修練」「友情」「探究」の4つのテーマより議案を作成し、事業構築の本質に触れ、会員の動員マネジメント、事業構築の達成感や難しさを体験し、JCの本質的な魅力を感じます。



運動効果

組織改革の事業であるため、すぐには地域社会への影響が出てくるものではありませんが、新入会員による拡大活動の事例からも、今までアプローチできなかった層への拡大につながっており、結果として本年度入会者の30名のうち半分以上が20代の入会となりました。早い時期からJC活動に参画するメンバーが増えてきたことにより、今後10年以上LOMの屋台骨として活躍してくれるメンバーを育成できたことは、今後の地域社会に必ず良い影響を与えていく素地ができあがったものと考えます。

「JCの存在意義を見つめ直す!」

長門JCフィロソフィ策定事業

一般社団法人長門青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

会員減少が著しく、その要因として、危機感の欠如、会員自身が組織に魅力を感じていない等が挙げられましたが、総括をすると「組織力の低下」を意味していました。強い組織にするために必要なことは、ブレることのない理念であると確信し、フィロソフィ策定については2023年度予定者段階から、その重要性を示してきました。また、組織改革実行室を設置し、会員からによる意見の集約を図る機能をもたせました。具体的には、まず、現状の分析をしっかりと行いました。なんとなく置き去りにしてきたものや、核心をつく課題も目をそらすことなく挙げました。それらの課題について本来あるべき姿や求める姿はどういったものか議論し、理想像を固めていきました。いくつかの方向性が固まり、その理想像を叶えるためのエッセンスを加え、1年間に及ぶ策定作業が完了しました。今後も、大切にすべきことから目をそらすずに向き合えるLOMでありたいと思います。



事業背景

LOMを閉じる。2022年度末、長門JCは、その瀬戸際にいました。人口約3万人の活動エリアで、全盛期は50名以上いた会員も10名を切るころまで減少し、理事長予定者も決まらない中で、会には悲壮感が漂っていました。その状況になった時に初めて、JCとは何だったのか、自分たちの存在意義は何かを真剣に考えることになりました。なぜ約60年もの間、存在し続けることができたのか。JCが失ってしまうことは、地域にどのような影響を及ぼすのか。LOMを閉じるという決断をする前に、もう一度JCの、長門JCのあるべき姿を見つめ直し、本質に対して挑んでいくことが必要だと考えました。



事業目的

- ①長門JCにおける行動理念を明確にすることを目的とします。
「明るい豊かな社会を築く」という広義の中から、「自分たち長門JCが成すべきこととは何か」を統一し、会員にとってわかりやすい言葉に置き換える必要性を感じました。
- ②会員が主体的に事業に関わることを目的とします。
一人ひとりのちよとした「他人事」が今の危機的な状況を招くきっかけとなったとすれば、事業に対して些細な部分でも関わることで、「自分事」として向き合うことができると考えました。
- ③行動理念を共有し、次の世代に引き継ぐことを目的とします。
私たちが直面したようなLOMのピンチというのは今後も幾度となく訪れます。その時に、頼るべき「芯」が必要であり、その「芯」こそが、これからの未来を歩んでいくための大きな武器にもなりえることから、引き継いでいくことが重要だと考えました。



事業概要

長門JC会員がもつべき意識・価値観・考え方(行動理念)をまとめたものとして「長門JCフィロソフィ」を策定しました。これにより、会員は同じ価値観や考え方のもと、一体感をもってJC活動に取り組むことを期待します。そして、自らの成長を楽しみ、長門JCの価値や品位を高めることで、地域の発展に貢献していく組織を目指すことを明記しました。フィロソフィは「第1部 未来の長門にワクワクを。」「第2部 明日の自分にドキドキを。」の2部からなり、第1部では、地域との関わり的重要性や、知る・語る・行動することの重要性を示しました。第2部では、今日の自分より明日の自分はもっと成長しているという実感ができるように、挑戦・熱量、出会いなどの項目を示しました。策定にあたっては1年間じっくりと時間をかけ、あらゆる場面で議論を行い、皆の意見をもとに定めました。



運動効果

地域の方からよく「長門JCはどんな組織なのか」と聞かれることがあります。事業や活動は明確に回答することができますが、どんな組織なのかを会員全員が同じ答えを示すことがこれまではできていませんでした。しかし、フィロソフィを策定したことで、誰もが同じ答えを返せるようになりました。そのことによって、会員拡大が進み、中国地区では会員拡大最優秀賞を受賞することができました。また、フィロソフィの策定自体がLOMのブランディングにつながり、理念に共感していただきやすくなったことで多くの協力者を得ることもでき、地域における長門JCの価値を高めることに大きく寄与していると分析しています。

2024年度定時総会

一般社団法人横浜青年会議所

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

想定外のことがあっても委任状の回収率を高い次元で維持するため、日本JCの総会にて使用されている電子システムを横浜JCにもち帰ることができないかを検討し、対応事業社を調査することから本事業を始めました。

より良い変化を生み出すJCとして、カーボンニュートラルへの推進、経費の節約、資源の節約、業務の効率化、これらを率先して行うことによって地域へのイノベーションを生み出せると考えます。DX、デジタルという言葉に忌避感を抱いてしまう方もいる中、『総会出欠フォーム』の利便性を正会員が体験し情報を発信することで、社業や地域のDX化への心理的ハードルを下げるのが可能だと考えます。アナログな手作業に割いていた時間を、できることからデジタル変換することで、新たなイノベーションを生み出すことも可能だと考えます。



事業背景

■会員の意見集約とカーボンニュートラルの推進

横浜JCの定款に定められる総会はすべての正会員をもって構成されています。総会の種類としては、定時総会と臨時総会の2種類で、定時総会は毎年1月に開催されるものとされています。全正会員が定款で定められた議題に関して議決権の行使をするのが総会です。2024年度の定時総会より、資源保護、通信費削減、回答率向上の観点より、新たに『総会出欠フォーム』というWebシステムを導入いたしました。理事会構成メンバーのメーリングリスト、横浜JC正会員向け公式LINE及び総括LINEを通じた案内を行うほか、横浜JC正会員の登録先住所へQRコードを記載した通知文を送付し、周知徹底を行うことといたしました。



事業目的

■定時総会の電子システム導入における効率化と資源の保護

定時総会とは横浜JC内における最高意思決定機関です。横浜JCの定款に定められる総会はすべての正会員をもって構成されています。総会の種類としては定時総会と臨時総会の2種類とし、ともに理事長が招集いたします。定時総会は毎年1月に開催されるものとされており、全正会員が出席義務を有し、定款第4章第21条に定められた議題に関して議決権の行使をする事業です。総会は原則出席をするものですが、感染症の罹患による体調不良や、突発的な事故など不可抗力により、やむを得ず欠席する場合があります。またその際に委任状が紙のみで会社へ郵送を設定されている場合だと対応ができかねる事態が想定されます。それらを防ぎ会員の意思を集約させるため『総会出欠フォーム』を導入致しました。さらに、返信用はがきを廃止することによって、資源保護及びCO2削減を推進いたしました。



事業概要

■定時総会における電子システム導入

定時総会における電子システム導入により、得られる効果横浜JCの定款に定められる総会は、すべての正会員をもって構成されており、総会の種類として定時総会と臨時総会の2種類とし、ともに理事長が招集いたします。定時総会は毎年1月に開催されるものとされており、全正会員が定款第4章第21条に定められた議題に関して議決権の行使をする事業です。前述の通り電子システムを導入することで、不可抗力における委任状の未提出という事態を限りなく減らすことが可能です。また返信用葉書を使用しないことにより通信費の削減、デジタルデータによっての情報集約の効率化、そして、紙資源の削減及び郵送時CO2削減をすることができました。



運動効果

■LOMとしての意思確認の向上

定時総会とは、横浜JC内における最高意思決定機関です。重ねての表記になりますが想定されていない不慮の事態による委任状の未提出を限りなく減らすことで、横浜JCとしての意思決定を、より強固にすることができました。理事会構成メンバーより徹底した事前アナウンスと質疑対応などの説明を行っているため、万が一委任状が未提出の場合でも意思の集約はできていると考えます。ただ本人署名の委任状が提出されていればより強固なエビデンスをもとに意思決定を行うことで、横浜JCとしての結束力は、より強固になると考えます。

AWARDS JAPAN

2024

事業褒賞部門

BESTアドベンチャーツーリズム賞

【 Smile Trip Project の概要 】

現代の日本において、ヒト・モノ・カネが一極集中に陥り地域経済の悪循環が発生する一方、観光立国として世界から注目されながらも外貨を獲得する機会を活かせていない現状があります。

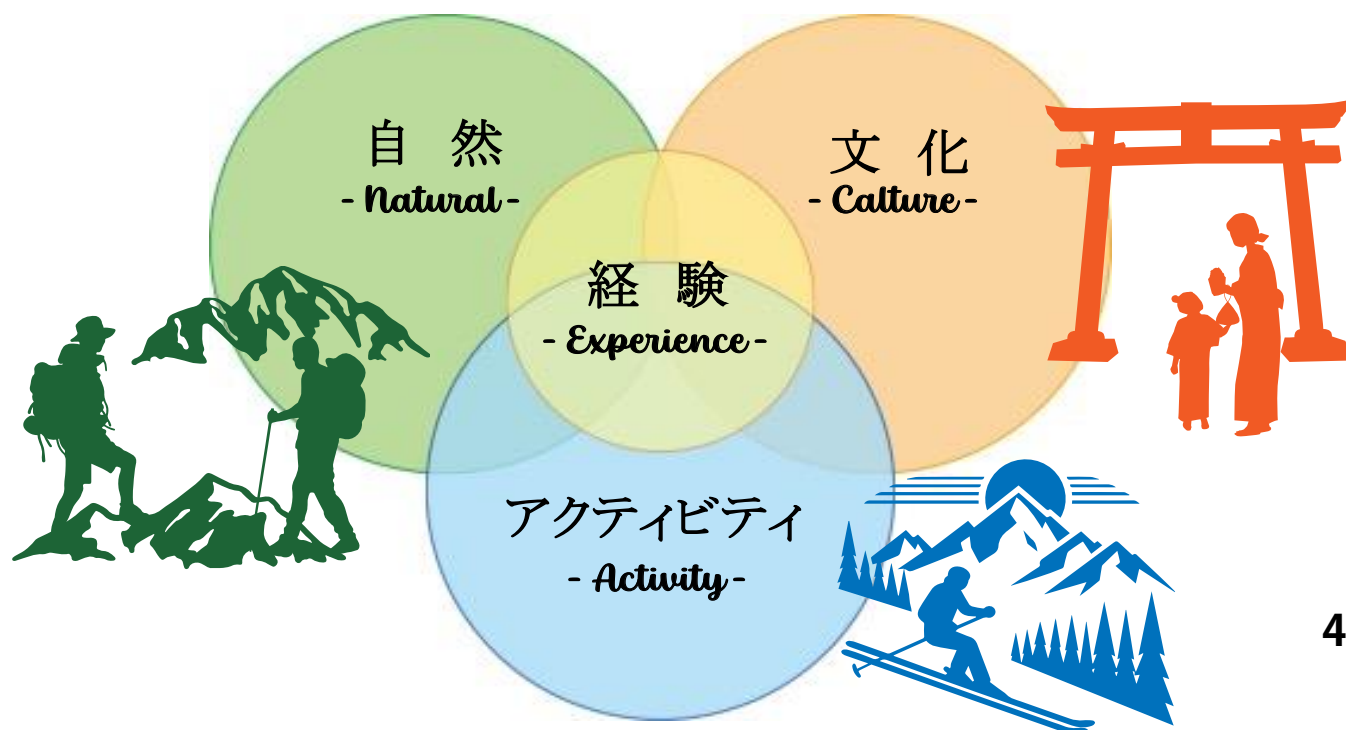
インバウンドが注目され有名な観光地等インバウンドの恩恵を受けている地域は限定的であり、地方までは十分に足が伸びていないのが現状です。本事業においてはアドベンチャーツーリズムの手法を取り入れ、大都市や観光地ではなく地方だからこそ可能な観プランをブロック協議会と連携しながら策定し、訪日外国人の方を呼び込み、地域経済の活性化を図ります。

アドベンチャーツーリズム = AT

「アクティビティ」「自然」「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される旅行をいいます。

地域独自の自然やありのままの文化を体験し旅行者自身の自己変革

「心の冒険」がATとなります。



【 実行計画書 】

一般社団法人高岡青年会議所

プラン名 高岡の食×伝統文化×自然を感じるツアー

実行計画書の詳細はこちら: [実行計画書\(高岡JC\)](#)

リンク先は
こちら

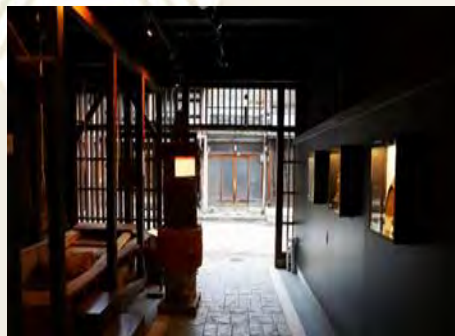
AT要素	文化体験 アクティビティ	受入期間	通年
受入人数	4名程度	発信方法	観光協会

【ストーリー性】

2012年に全国で初めて、伝統的建造物群保存地区の選定を受けた高岡の鋳物発祥の地である金屋町をガイド付きで歴史や文化を学びながら散策できるだけでなく、高岡は自然が豊富なまちであり、海の幸が豊富な富山湾や雨晴海岸などの絶景も楽しむことのできる「食×伝統産業×自然」で特別な体験ができるツアーです。

【連携するステークホルダーで地域に起きた変化】

地域の様々な業種を巻き込んだインバウンド戦略会議を通して、高岡の観光地としての魅力を再発見することができ、新たなコンテンツを地域一体となって導いています。



【 実行計画書 】

一般社団法人備前青年会議所

プラン名 土と炎の里 MADE in BIZEN を巡る旅

実行計画書の詳細はこちら: [実行計画書\(備前JC\)](#)

リンク先は
こちら

AT要素	自然、文化体験、 アクティビティ	受入期間	通年 ただし登り窯を焼 成している期間に限る
受入人数	2～5名	発信方法	観光協会のOTA、 トリップアドバイザー

【ストーリー性】

岡山県備前市は肥沃な大地と豊富な日照時間に恵まれ、豊かな土壌が育まれました。そうした地域性から生まれた備前焼や刀剣などの美術品や、米や醤油といった農作物がこのまちとともにどう成長していき、今に至るのかを感じていただきます。

【連携するステークホルダーで地域に起きた変化】

備前焼の陶芸家たちはどちらかというと観光客、なかでもインバウンドに関しては関心がない傾向でしたが、本事業を契機に前向きに取り組む動きがみられました。



【 実行計画書 】



屋久島青年会議所

プラン名 YAKUSHIMA Island Tour 2024

実行計画書の詳細はこちら: [実行計画書\(屋久島JC\)](#)

リンク先は
こちら

AT要素	自然、文化体験、 アクティビティ	受入期間	通年
受入人数	2～5名	発信方法	ポータルサイト、SNS

【ストーリー性】

世界自然遺産の島「屋久島」に生きる人々と直に触れ合うことで、人々が何を思いながら暮らしているのか、屋久島が世界に発信できるテーマとは何か、参加者に島民の熱い思いを感じていただくツアーです。

【連携するステークホルダーで地域に起きた変化】

行政に対する勉強会を戦略会議が主体的に開催するなど、地域でアドベンチャーツーリズムの造成に取り組むことができました。



AWARDS JAPAN

2024

事業褒賞部門

デジタルDE未来まちづくり賞

事業褒賞部門 デジタルDE未来まちづくり賞

3月例会未来はいつも妄想から始まる ～社会課題解決型ハッカソン～

一般社団法人一関青年会議所

～事業にける想い、工夫、こだわり～



本事業は、綿密な計画と調整を経て実施されました。2023年10月から定期的にZoomを利用し、日本JC社会構想会議との打ち合わせや課題選定を行い、基盤を築きました。2024年には一関市役所や一関観光協会、一関工業高等専門学校などの対面打ち合わせを重ね、具体的な実施内容と協力体制を確立しました。

また、地域の現状理解とデジタル技術の活用を通じて、地域課題の具体的な解決策を見出すことに注力しました。これにより、地域社会に直接的なインパクトを与え、住民の生活の質向上に貢献しました。



事業背景

現在日本国内では都市部への一極集中が進んでおり、一関市を取り巻く社会情勢も大きく変化を続け、地方経済の次世代を担う人財流出による人手、担い手不足により地方の衰退化が進み始めています。地方経済の活性化に向け、地域課題を成長の原動力として、地方が抱える課題を解決していく必要があります。



事業目的

人口が減ることで起きうる人財不足や地域課題の持続的な解決のためデジタルツールの普及を目的とします。



事業概要

地域が持続的に課題を解決していくため、地域課題をデジタルの力で解決していくために課題解決型ハッカソンを実施しました。事業を二段階構成にし、第一段階でハッカソンを学び地域課題のブラッシュアップと解決策の考案を行い、一関JCの3月例会といたしました。第二段階を課題解決型ハッカソン実施としました。段階的に事業を実施することで、参加者ごとの役割をはっきりさせ、参加した方々全員に事業の有用性と個人の必要性を知っていただきました。



運動効果

この事業は、地域社会に対して多方面で大きな影響を与えました。まず、学生たちは事業で発表した内容をさらにブラッシュアップし、コンテストへの応募を決意しました。これにより、学生の自発的な取り組みが促進され、地域の課題解決に向けた意識が高まりました。また、岩手県交通やバス協会との協力により、時刻表ブラウザアプリの実験的実装が進行しています。これにより、地域の交通インフラの改善が期待され、住民の利便性向上に寄与することが見込まれます。さらに、一部上場企業との連携を通じて、地域創生行政コンサルティングメニューへの導入が進んでおり、全国展開を視野に入れた話し合いが行われています。これにより、一関市だけでなく、他の地域でも同様の取り組みが広がり、地方創生の一助となることが期待されます。このように、事業を通じて得られた成果や新たな取り組みは、地域社会の課題解決に向けた具体的なアクションを生み出し、将来的な発展に寄与する重要なステップとなっています。

社会課題解決型ハッカソン in 柏崎

一般社団法人柏崎青年会議所

～事業にける想い、工夫、こだわり～

柏崎市と刈羽村は隣接する市町村であり経済圏を共有しています。柏崎刈羽地域には世界最大級の発電量を誇る原子力発電所を構えており、柏崎市と刈羽村は切り離せない関係であることから、社会構想会議と柏崎JCで打合せを重ね、柏崎市と刈羽村を交えた開催を計画いたしました。そのうえで参加学生が本事業後にも社会課題解決につながる人財になっていただくため、参加学生には、行政が抱える課題を正確に把握し、課題の重さを本人事として体感してもらうことを重要視しました。



事業背景

現在、日本国内では人口減少社会を迎え都市部への一極集中が進んでおり、地方の過疎化や地域の産業の衰退などが大きな課題となっております。柏崎刈羽地域も決して例外ではなく、地方経済の活性化に向け、地域課題を成長の原動力として、地方が抱える課題を解決していく必要があります。本年度、公益社団法人日本青年会議所社会グループ社会構想会議では、人口減少社会における地方の社会課題の解決につなげ、希望ある未来を描く運動の推進を行っており、柏崎JCとしても、社会構想会議と協同し事業を行うことで、柏崎刈羽地域が抱える社会課題解決の一助とするべく事業を実施しました。



事業目的

(対外)
人口が減っていく中で次世代を担う人財と地域課題をデジタルで解決するロールモデルを構築することでデジタルツールの普及を目指し、地域課題の持続的な解決を目的としました。

(対内)
行政が抱える地域課題を正しく認識することやデジタルを扱う人財とつながりをつくることで、社業や個人の生き方に活かす等の個人の成長を目的と、柏崎JCへの還元を期待します。柏崎JCメンバーとしても日本JCと関わりをもつことで、有益なツールを獲得し、また風土の共有により今後の活動への学びを得ることを目的としました。



事業概要

柏崎刈羽地域が持続的に地域課題を解決していくためには、デジタルの力が大きな可能性を秘めており、今後、柏崎刈羽地域が課題解決を目的とし自走していくため、社会課題解決型ハッカソンを実施しました。事業計画段階より、日頃より交流がある柏崎市、刈羽村より全面的なご協力をいただき、行政が抱える課題を正確に把握してから事業を迎えることができました。また、新潟産業大学、新潟工科大学という専門性の違う2大学の学生同士、協同してもらうことで、それぞれのアイデアや想い、培ってきた専門性をもち寄り、新たな解決策を描き、アプリを開発していただき地域課題を解決する一歩目を踏み出していただきました。



運動効果

今回の事業で、社会課題選定では2市町村、学生募集では2大学、フィールドワークでは12団体(企業または個人)、アドバイザーボードでは8名と、多くの団体企業個人の方からご協力いただきました。1団体1団体丁寧に事業の説明をしていくことで、JCの事業はとても素晴らしい事業をやっていると快く協力いただく方々ばかりでJCの応援者を増やすことができました。効率的にSNS等で広く広報していくことも重要ですが、事業の中身をしっかりと理解して応援していただくには、地道に足を運んで交流していくことの必要性を改めて感じました。また学生は大きな成長を遂げてくれたと教授より報告を受けております。特に休みがちだったメンタル不安をかかえる学生が、人が変わったように頑張っており、しっかり話せるようになっていたり、学生の成長の良いきっかけをつくることができました。

社会課題解決型ハッカソン in 奈良

公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会 地域力共創委員会

～事業にかける想い、工夫、こだわり～

奈良県吉野郡の吉野町、下市町、川上村を対象に、地域課題解決と魅力発信を目的としたハッカソンを実施しました。事前に4回の「魅力発掘会議」を開催し、現地の視察や魅力の発掘を行いました。毎回の会議には、対象地域の行政担当者にも参加いただき、より地域課題の深堀や魅力の発掘の解像度を上げることができました。その後、ITエンジニアやデザイナーを目指す学生を中心にチームを組み、デジタル技術を活用して地域課題を解決する具体的な方法を考案しました。ハッカソンでは、行政とも連携し、提案された、アイデアをアプリという形で具現化することで、より具体的な地域課題の解決策の提案を行いました。



事業背景

奈良県吉野郡の吉野町、下市町、川上村は、歴史的な遺産や豊かな自然を有する一方で、少子高齢化や観光客の減少といった課題を抱えています。特に地域資源の有効活用が進んでいない現状が、地域の衰退を加速させる要因となっていました。このため、地域の魅力を再発掘し、外部へ効果的に発信することで、地域の活性化を図る必要がありました。そこで、近畿地区協議会地域力共創委員会は、地域住民や企業との連携を強化し、デジタル技術を活用した観光促進策を検討するためのハッカソンを実施するにいたしました。



事業目的

対象地域として、奈良県の中でも課題先進地域である、奈良県吉野郡の吉野町、下市町、川上村を選定し、ITエンジニアやデザイナーを目指す学生に参加していただきました。その上で、地域力共創委員会の推進事業として実施していた「魅力発掘会議」で見つけ出した地域の潜在的な魅力や資源を活かし、地域の課題をデジタル技術を活用して効果的に解決する方法をデザインすることを目的としています。



事業概要

奈良県吉野郡の吉野町、下市町、川上村を対象に、地域課題の解決と魅力発信を目的としたハッカソンを実施しました。ハッカソンは、参加者がチームを組み、特定のテーマに対して意見やアイデアを出し合い、限られた期間内にアプリケーションやサービスを開発し、その成果を競い合うワークショップです。本ハッカソンでは、ITエンジニアやデザイナーを目指す学生を中心に、地域の魅力や資源をデジタル技術を活用して効果的に発信する方法を提案しました。さらに、提案されたアイデアに対して、該当地域の行政職員から、地域での実現可能性について、JCメンバーをはじめとする企業経営者から事業性についてフィードバックをいただきました。学生のアイデア出しだけではなく、アプリ開発を通して、アイデアの具現化を行うこと、地域の方や経営者から実践的なフィードバックを行うことで、社会課題の解決策としての質の向上を図りました。



運動効果

このハッカソン事業は、地域住民や企業との連携を強化し、地域資源の価値を再評価する機会となりました。特に、フィールドワークや実証実験を通じて発見されました。新たな観光資源や活用方法が、地域のブランディング強化と経済活性化に、寄与しました。地域全体での取り組みを通じ、持続可能な観光や地域経済の発展に向けた基盤が築かれました。

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
10名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 10名以下の部

安芸青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

管轄エリアである9市町村並びに住民票が管轄エリアに有さない方々も入会できる特徴を活かし、拡大候補者のネットワークを広げたことでJCを身近に感じる機会を提供できました。またメンバーへ拡大活動を強制するのではなく、理事長自身で拡大活動を背中ですすよう心掛けました。お陰様でメンバーが新たな候補者を迎え入れる文化がつけつつあります。

9名→21名 / 純増12名 / 純増率133.33%

一般社団法人さくら青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

今年は拡大に力を入れると決心し、目標を500%の15名拡大を掲げました。メンバーに拡大の号令を発信し続け、メンバー全員で拡大活動に奮闘し、また、OBの方が50歳以下の中年会議所を発足させ対象者を探し拡大に協力していただいた結果、町内に住んでる人を多く入会させることができ、まずは10名の拡大に成功したが、残りの期間であと5名、必ず拡大目標を達成させるさらなる決意をメンバー全員が固めました。

3名→8名 / 純増5名 / 純増率166.67%

一般社団法人逗子葉山青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

メンバーと拡大候補者にJCの面白さと魅力を感じてもらえるよう、毎月の例会の開催等、正会員3名という少ない人数であっても活動し続けることを意識しました。また、先輩方と積極的にコミュニケーションの機会を持ち、LOMの危機的現状を知っていただき、拡大対象者の情報提供や勧誘時の援護射撃などの手厚いサポートを得られたことも大きかった要素だと感じました。

3名→7名 / 純増4名 / 純増率133.33%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
20名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 20名以下の部

一般社団法人綾瀬青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

45周年を迎えた綾瀬JCが、10名の少数精鋭でスタートし、実質稼働メンバーが5名という存続が厳しい状況にある中、メンバー全員が力を合わせて拡大活動に取り組んでいます。存続への強い意志をもちながら新しいメンバーの拡大と地域貢献に向けて尽力しています。

18名→30名 / 純増12名 / 純増率66.67%

一般社団法人桶川青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

全メンバーで13名、アクティブメンバーが6名でスタートした本年度は、『アクティブメンバーを獲得すること』を軸に運動を展開しました。

- ①OBやメンバーが入会者を推薦したくなる明るく活発な印象づくり
 - ②既メンバーのコミットメントを深めるため、発想を活かした事業提案の促進
 - ③休眠メンバーの再アクティブ化のためのメンバーの個性に合わせた活動参加の在り方の検証
 - ④新入会者の孤立を防ぐための委員会の活性化とメンバー間交流の推進
- とそれぞれの段階に合わせた目配りを行うことで、年度目標の約2倍の拡大をするとともに、新しいメンバーのアクティブメンバー化を実現することができました。

13名→22名 / 純増9名 / 純増率69.23%

一般社団法人丹羽青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

過去のLOMの活気に憧れをもち、当時のような活気あるLOMに戻りたいと心に強く誓いました。本年度の拡大の手法は「泥臭い拡大」をテーマに掲げ実践し、リストアップから、企業への突撃訪問、気軽に食事に行けるようになるまでゴルフや趣味で関係を構築するなど少しずつ入会者が増えてきたことで、メンバーにも熱意が伝わりLOMが盛り上がり始めました。やがてその熱意がOBにも伝わり、息子や社員を入会させてほしいと依頼があり、多くの入会者を獲得することができ、LOMに活気と笑顔が増えました。現在はメンバーが楽しそうな顔で例会や事業を実施することができ、想いや熱意を伝えることの大切さを知りました。

17名→30名 / 純増13名 / 純増率76.47%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
30名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 30名以下の部

一般社団法人一関青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

今まではあまり拡大に力を入れていませんでしたが、今後卒業を迎えるメンバーを考えると、あと5年でメンバー数が半分になる事実に向き合い、拡大に力を入れることを決意しました。拡大ターゲットで20代や女性を狙いスイーツバイキングの交流会を開催し、対外から69名の参加者が集まり、7名の拡大に成功しました。またOBにも協力いただき、メンバーが候補者リストを出してくれたことで拡大の幅が広がり、メンバー全員行動力をもって拡大活動を行いました。メンバーの数が増えたことで、よりインパクトのある運動を今後展開できました。

30名→63名 / 純増33名 / 純増率110.00%

一般社団法人土岐青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

予定者段階から岐阜ブロック協議会の清水委員長や本会拡大委員会の石川委員長、そしておおさき青年会議所の皆様から力強いご支援をいただき、それに伴ってLOMの本気度もどんどん高まってきました。ひとえにJCのつながりが生み出す力、同志のために動く力のおかげです。本当にありがとうございました。

30名→45名 / 純増15名 / 純増率50.00%

一般社団法人都城青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

拡大について(成功したと思うこと)

- ・理事長自らが動いたことで、メンバーの拡大への意識が高まりました。(トップが動く姿勢)
- ・また、拡大リストを作成したことによりメンバー全員で共有することで200名以上にアプローチをすることができました。そして、毎月理事会時に進捗報告を実施し現状の共有をいたしました。何よりも理事長自らがシニアへの協力依頼など動いたことでメンバーの拡大への意識が高まり、拡大につながりました。
- ・毎月1回の理事会時に、委員会ごとの拡大進捗報告
- ・理事長がシニアへの都度報告(拡大の意識をシニアにも向けた)
- ・拡大対象者、シニアを招待しゴルフと懇親会の例会を実施

27名→43名 / 純増16名 / 純増率59.26%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
50名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 50名以下の部

一般社団法人市川青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

本年度のスローガンは～Sense of owner ship～、一人ひとりが当事者意識をもって、会の未来を考えて自分が会の代表であるという意識のもと、メンバー全員が一丸となって会員拡大に取り組みました。その結果として多くの仲間と共に来年の60周年を迎えることができます。歩みを止めることなく持続可能な団体として今後も会員拡大に取り組みます。

37名→59名 / 純増22名 / 純増率59.46%

一般社団法人流山青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

例年拡大に力を入れておらず、気が付けば期首人数34名。拡大は2つの要素が重要と定め、カリスマ性を持ったリーダーが引っ張ること、そして拡大を仕組化することである。40歳の年齢制限をもたない異業種交流会を6回開催し、毎回60名近くの参加者が集まり、そこではJCを語らずビジネスの話のみでつながりをつくり、後日クロージングにつなげました。またOBにあまり頼らず、卒業生に新たな候補者をつなげていただき、卒業生の中でも拡大について話し合う機会が生まれました。

34名→58名 / 純増24名 / 純増率70.59%

一般社団法人日立青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

メンバー全員の拡大意識の向上と、進捗状況を定期的に把握するために会員拡大会議を設置し、毎月1回以上の会議を開催しました。その結果、メンバーが抱えている候補者の情報を漏れなく把握することができ、また、候補者に対しての適切なアプローチを共有し実践することで、多くのメンバーの拡大につなげることができました。

32名→46名 / 純増14名 / 純増率43.75%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
75名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 75名以下の部

一般社団法人大東青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

例年拡大には注力していなかったが、理事長が中間目標は15名とし明確な数字を掲げ大号令を発しました。メンバーは中間目標を達成し自信がつき、後半の拡大にも全力で活動できました。また新入会員の委員会は設けておらず各委員会に配置させたことで、入会後のフォローを各委員会が行ってくれたため委員長は拡大に集中できました。多種多様な入会者、委員長が30歳ということもあり20代の入会者は15名と若いメンバーが増えLOMは活気が戻り、今後もこの勢いを衰えさせず運動を展開していきます。

55名→79名 / 純増24名 / 純増率43.64%

公益社団法人調布青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

青年会議所という団体活動に理解が少ない方が多く、時間をかけてこの団体の説明し本人の意思を尊重し入会していただく、工夫をしました。自分の意思での入会により使命感をもって事業に取り組み拡大メンバー内での達成感と強調性が生まれました。またLOMの理事メンバーへの入会目標人数を公言し理事メンバー全員を巻き込み理事メンバー全員が拡大活動に丸となって取り組めたことがこの結果を導いたのかと感じております。

59名→78名 / 純増19名 / 純増率32.20%

公益社団法人鶴岡青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

「地道に泥臭く」を合言葉に、JC手帳に載っている賛助会員、シニアクラブ、現役会員にひたすらご連絡をし、候補者情報とアポイントの依頼を毎日のように行いました。実際に候補者とお会いする際には、昼夜関係なく、相手の性格や望む形に合わせた面会を行い、不安や疑問を聞き、それらに一つ一つ答えていく、そしてクローজिंगまでしっかりと行うということを、毎日永遠に繰り返しました。そして説得するのではなく納得して入会いただけるように心掛けました。また「40名入会」という高い目標を立てることで、最後まで気を抜くことなく拡大活動に邁進することができました。アワードが設定されていることも私たちのモチベーションを高く保つ要因となりました。心より感謝申し上げます。

61名→84名 / 純増23名 / 純増率37.70%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
110名以下の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 110名以下の部

公益社団法人太田青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

会員拡大においての取り組みとして、まずはメンバーの拡大への必要性和拡大したらどうなるのかの意識づけをしてきました。誰かに頼るのではなく一人ひとりが動き考えていきました。紹介できる方が居ない場合は目ぼしい方をリストに上げ、拡大担当委員会とクロージングができる方と一緒にアプローチに行くことを意識して活動をしてきました。また、SNSでの発信や共感を求め泥臭い手法や時代にあった手法の二つのパターンで拡大を求めた結果、多くのメンバーの入会につながったと感じました。入会者を集めただけでは無く入会した後も当LOMは求めていきたいと考えております。

81名→104名 / 純増23名 / 純増率28.40%

公益社団法人春日部青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

人数が多ければよりインパクトのある運動を起こせると思い、100名LOMになる目標を掲げ拡大をスタートしました。無理な拡大をせず「勧誘したからといって自分たちに利益があるわけではない。勧誘はしません。ただ一つだけ条件を出させて欲しい。自分たちが一生懸命つくった例会や事業の案内を送らせてください。」と例会に誘い、同年代が頑張っている姿を見せることで「私にもできますか?」と言ってもらえるようにしました。メンバーが蒔いた種を大事にしたいという思いから紹介者や入会者の対応は一人ひとり丁寧に行っていることも鍵だったと考えます。

76名→111名 / 純増35名 / 純増率46.05%

一般社団法人栃木青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

JCをやってよかった、この仲間と出会えてよかった、その想いを伝えたいと…熱い気持ちだけで仲間を集めてきました。2024は『わっしょい!』を合言葉にメンバーが一丸となって、新しい出会いを求めて、楽しく仲間を集められました。みんなで「わっしょい!」

80名→109名 / 純増29名 / 純増率36.25%

AWARDS JAPAN 2024

拡大褒賞部門
優秀拡大LOM賞
111名以上の部

拡大褒賞部門 優秀拡大LOM賞 111名以上の部

一般社団法人堺高石青年会議所



～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

例年拡大にしっかり力を入れており例年50名から60名の拡大を維持していますが、近年会員数が減少し、更なる拡大への注力が求められました。経営者のみだけでなく、JCは組織や様々なことを学べるので、企業の中間管理職の人や会社員などを入れるべきと考えました。拡大の士気をあげる方法として、3名1チームを組ませて拡大をさせるようにした結果、最初は盛り上がり欠けていたが、議長が諦めずにたくさんのグループLINEを動かして最終的に自走し拡大するほどに各チームが盛り上がりました。また紹介された企業や飛び込みで多くの企業に出向き「必ず成長せるので社員さんを預けてください」とお願いして回った結果、若い層や中間管理職の方が多く入会しました。メンバーが新入会員を例会に連れてくる関係もあり、メンバーにも責任感や当事者意識が生まれLOM全体の出席率が向上につながりました。

167名→233名 / 純増66名 / 純増率39.52%

一般社団法人札幌青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

メンバーが当事者意識をもって拡大運動を行うよう、拡大担当委員会が分担しながら全ての委員会に出席し、拡大運動の重要性を説き続けました。また、実際の拡大運動においては、各アクションの日程を細かく把握し、進捗が滞らないよう細かく管理しました。さらに、理念共感拡大のもと、知人を紹介したくなるような組織の良さを自発的に感じることによって能動的な拡大運動につなげました。

197名→241名 / 純増44名 / 純増率22.34%

公益社団法人名古屋青年会議所

～会員拡大における取り組み、工夫、想い～

名古屋JCには、毎年、会員拡大の目標となる人数を定め、その目標を必ず達成してきたという「必達」の文化があります。本年度は新会員の募集目標を180人と設定し、募集活動を開始しました。180人という高いハードルに向かい、1月から4月中旬の約4カ月の間、各委員会でも月目標を設定し、毎月の会議で達成状況を報告しあいながら、進捗を管理していきました。このように会員一丸となって募集活動に邁進した結果、目標を大幅に上回る、201人の新入会員に入会していただくことができました。次年度以降もこの必達の文化を継承していき、LOMのますますの発展を目指して邁進してまいります。

545名→683名 / 純増138名 / 純増率25.32%

AWARDS JAPAN

2024

拡大グランプリ



公益社団法人春日部青年会議所

拡大率46.05%



～受賞スピーチ内容～

公益社団法人春日部青年会議所、会員拡大会議長の松田と申します。本年度、会員拡大がうまくいくためにはLOM全体が一丸となって、拡大運動をしていくことを目指して参りました。今私は代表としてここに立っておりますが、それを実現させたのは、LOMの委員会、メンバー、皆さんのおかげだと思っております。今年度、素晴らしい事業、例会を各委員長や、メンバーが実施してくれています。私たちは、覚悟をもった新しいメンバーたちの背中を後押しするだけでした。これをこの年だけでというつもりはありません。これから、埼玉にある春日部JCを皆さん注目していただきたいと思います。そして必ずこのJCをよりよい団体にしていきたいと思っております。この度はありがとうございました。

AWARDS JAPAN

2024

準グランプリ



公益社団法人春日井青年会議所

6月オリエンテーション

『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』



～受賞スピーチ内容～

公益社団法人春日井青年会議所、本年度理事長を務めております齊藤と申します。今回はこのような賞をいただきまして、大変ありがとうございます。春日井JCは、100名近くのメンバーがいるLOMであります。しかしながら、今回受賞いただいた事業の予算は、35,000円、必ずしも多い予算ではない中で、委員長、副理事長、そして委員会メンバーがアイデアを出し合っていたいて、このような受賞につながったかと思います。皆様本当にありがとうございました。

AWARDS JAPAN

2024

グランプリ



屋久島青年会議所

YAKUSHIMA Island Tour 2024



～受賞スピーチ内容～

屋久島JC、本年度理事長を務めさせていただいております岩川と申します。本日はこのようにグランプリまでいただき本当にありがとうございます。屋久島から遥々来た甲斐がありました。我々のLOMはたった5人のLOMです。この事業計画を提出するにあたって、毎晩集まって、11時、12時まで皆で練り上げて練り上げて、楽しいものをつくろうとやってきたのがこの事業でございます。本当にJCの皆さんにすごく助けてもらっていると思っております。ぜひ皆さん屋久島にいらしてください。本日はありがとうございました。

アンケートにご協力ください



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfa9Jsi6EXB56uDAeVvZuQzGOTz3WDGqyvcUW5eLKWcQlFvFQ/viewform>

**Please cooperate
with the questionnaire**